京城日報

十三日夕刊

本紙定價 一部金二錢五厘 一ヶ月金六十五錢 郵税一ヶ月金十五錢 郵税三ヶ月分金二圓六ヶ月分四圓 前金に限る ▲郵券代用一割増

廣告料 ▲五號活字十六字詰一行金八拾錢 ▲二號活字八字詰同上壹圓六拾錢 ▲三號活字十一字詰壹行金壹圓貳拾錢 ▲四號活字廿一字詰金八拾錢 ▲六號活字…

發行兼編輯人 奧山直毅
印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社
電話番號 編輯用三四五番 營業用三二六番 振替貯金口座京城三〇〇番

支那の形勢

▲請願代表者逮捕さる

總檢察長は地方檢察廳に命じ請願團代表者六名を逮捕し處理に著手せり其中四名は陸軍將官及び軍屬なれば軍法會議に廻はさるべし(北京電報)

▲衆議院代表者陳情

衆議院代表者は十一日黎總統に謁し議員は議會の神聖を保ち議院の職務を行ふ上に於て段總理の保護に依頼する能はず總統に於て適當の方法を講ずべしとの保障を與へらるゝ迄は開會し難しと陳情せり(北京電報)

▲段總理辭表提出說

段總理は十一日自宅に閉居し國務院に赴かず昵近者に向ひ請願團の暴擧は余の命令にて驅逐し議員保護の職責を盡せり然るに却つて余を攻擊し請願團の黑幕となす者あり故に總理の職に止まるを欲せず且つ宣戰案を貫徹するを得ずば必ず辭職すべしと語りしが十二日に至りて終に辭表を提出せりとの說あり(北京電報)

▲段總理は愈々十四日辭任すべく後任は財政總長李經羲氏ならんと觀測する者あり(北京電報)

▲閣員全部辭職か

段總理の辭任說と共に閣員全部辭職したりとの說もあり政界混沌を極む(北京電報)

▲黎總統に勸告

孫文參戰反對意見公表

孫文、岑春煊、唐紹儀、章炳麟、温宗堯氏等は十一日北京の黎總統に對し猛烈に不昧の徒を懲罰し國會の尊嚴を保持すべき旨打電し又孫文氏は段祺瑞氏に贈りたる對支宣戰反對意見書を二日各支那新聞に公表せり(北京電報)

▲政界益々紛糾せん

最近入京せる張勳氏は段總理を擁護すべく爲に北京政界は益々紛糾し遂に收拾すべからざるに至らん(北京電報)

▲張勳上京中止說

安徽督軍張勳氏上京せる旨傳へられたるも政府は時局を紛亂せしむる虞れありとしてその出發を許さざりし爲め同氏は遂に上京を見合せたりと傳へらる(北京電報)

▲請願團處分と黎總統

政府高壓手段に出づ

參戰請願團の處分につき黎總統は范內務總長に命じ檢事局をして取調に著手せしめたり其報告あり次第總統令を以て段總理に對し其の處分を命令すべし又請願團に加はりたる苦力の中騎馬巡査の馬蹄に蹴られ又は斬られしもの續々警察署に訴へ出で巡査隊の不法を詰りたるが却て悉く捕縛されたり(北京電報)

○米國、白耳義救濟

米國政府は其の一手に白耳義の救濟を引受くる旨誓約したり佛英兩國は今日迄其の九割を負擔したれば兩國は之にて肩拔けとなる譯なり(華盛頓電報)

◎獨逸の大打擊

米國の食糧輸出禁止

米國政府は獨逸國內に食糧品の入るを防ぐ爲め中立國に對し食糧品を輸出するを禁止したり獨逸に對する打擊は最も大なるべし(紐育電報)

◎獨逸又復講和提議か

獨逸は近く第二回の平和提議をなすべし而して其內容は交戰國の何れの國に對しても屈從的たらざるを基礎とするものにて宰相ベートマン ホルヴェヒ氏は十四日聯邦議會にて之が聲明をなすべし(桑港電報)

◎內山大將動靜

御慰問使內山大將は十三日午後四時安平丸にて清津に來著直に羅南へ向ふ(清津特電)

◎松平伯靜養

高松舊城內に滯在中の松平賴壽伯は盲腸炎急發し靜養中なり(大阪特電)

▲生徒見學團 大分縣來鮮

▲大分農學校生徒

大分縣立農學校職員生徒四十八名は朝鮮見學の爲め十三日午前九時入港關釜連絡船新羅丸にて來釜同十時三十分發列車にて京城に向へり

▲傳習館中學生徒

福岡縣立中學傳習館職員生徒約九十名は朝鮮見學の爲め十三日午前九時入港關釜連絡船新羅丸にて來釜同十時三十分發列車にて京城へ向へり(釜山特電)

◎間島觀察團

間島鮮人京城觀察團一行七十六名は十三日清津に來著、十三日鏡城、羅南を觀察したる上十四日再び清津に歸來し十五日朝鄭汽船立神丸にて元山へ向ふ豫定なり(清津特電)

◎東萊遊覽團著發

朝鮮民報社の主催に係る慶北道長官及び大邱府其他大邱の重なる官民二百餘名及び同地學校生徒二百名の遊覽團員は十三日午前九時釜山驛に下車同地より電車及び輕便鐵道列車に分乘東萊に赴きたるが釜山商業會議所及び釜山繁榮會は同團體歡迎の爲め樂隊、煙火、麥酒等の寄贈を爲し釜山有志者は釜山鎭停車場にて歡迎を爲せり因に同團體は同夜歸邱の筈(釜山特電)

◎贈勳答禮大使

章駐日公使より最近北京政府に對し日本政府は支那の戰團加入を熱望し支那外交方針の決定を待ちて贈勳答禮大使を派遣するの意ありと電告せり(北京)

◎シベリア銀行開設

哈爾賓埠頭區中國大街に西比利亞銀行支店を開設する事となり家屋新築中なるが竣工を俟ち直に開業する筈なり(哈爾賓)

◎山縣總監動靜

滿洲各地視察中の山縣政務總監は十二日午後九時二十分營口より長春に來著一泊したるが爾後の日程左の如し(長春特電)

▲十三日午後十時三十分長春發▲十四日午前十時十五分奉天著一泊▲十五日午前八時五十分奉天發▲同十一時十五分撫順著▲午後六時二十五分撫順發▲同八時三十分奉天著一泊▲十六日午前八時十分安奉線にて奉天發▲十七日朝京城著歸府さるゝ豫定

◎美濃部總裁歸任

國境及び西鮮地方巡視中なりし鮮銀總裁美濃部俊吉氏は既報の如く十三日午前八時南大門著列車にて[illegible]を隨へ歸京せり

◎松平理事出發

東拓理事松平直平氏は十三日午後七時五十分發列車にて會社株主總會列席のため東上の途に就けり

◎堀江東拓參事東上

東拓參事堀江庶務課長は十三日夜行列車にて總會の用務を帶び東上せり

◎名古屋觀察團

名古屋勸業協會主催支那、朝鮮視察團一行三十名は廿九日午前八時三十分南大門乘車同日午後七時著列車にて釜山通過關釜連絡船にて歸國の豫定なりと

◎京城市區改正

京城市內に於ける本年度市區改正費總額は前年度豫算踏襲により總額三十萬圓にして之が改正區域の目下確定せるもの左の如し

▲赤門通、永樂町二丁目通りを本町通りより鍾路通電車線路に到る間幅員八間延長約二百間は本年度工事の第一著手として近く土地の買收に著手し人道車道を分ちて年內竣成の見込みなり

▲敦化門通、昌德宮前通りを電車線路迄延長約三百五十間此區間を現在の總督部前通りより市區改正を行ひたるに則り更に多少の幅員擴大を行ひ年度內に於て橋梁架設及び地均工事を行ふべし

▲東大門外、元山街道擴張の計畫あるも未だ全部の設計書完成せざる爲め幅員延長等未定なり

此他本町線通りの改修及び總督部前通りの整理等確定し本年新たに收用すべき永樂町通りの土地買收價格は京城府廳の定めたる地税徵收標準に基き約一坪四五十圓の豫定にて又敦化門通りの土地買收價格も等しく右の地税徵收標準による方針なりと

南北滿洲

西海生

▼南滿洲の大寶庫は何處へ行くと問へば、何人も滿鐵の經營する撫順炭坑だと答ふるに躊躇しない、其の瀝青質鉛合炭の炭層は、百卅五尺から二百四十尺の厚さに及び、此點に於て正に世界唯一無二と稱せられてゐる

▼鑛區は東西四里南北一里坪數二千萬坪、鑛量の推算約八億噸に達すると云ふ、で一日に現在の二倍弱たる一萬噸宛の石炭を掘るも約二百年の生命がある譯だ、何でも炭坑では當初專ら殘柱法と稱する所謂炭層の柱を殘しつゝ掘り進んで行たが、それでは八億噸の石炭中約四分の一たる二億噸しか掘れない事になる

▼乃で四分の三の六億噸も地下に殘しては國家的の不利之れより大なるはなしとあり、炭坑の幹部は種々研究の結果、古城子に於ける露天掘の外、總て運河及び附近の連山より風化せる灑砂をとり來り石炭の掘採を進むるに伴ひ、灑砂の充塡を爲す聯法の實施も實に世界の炭坑に唯一無二だとの事だ

▼現に採掘中のものは大山、東鄉、千金寨、楊柏堡、老虎台の五坑であるが、近く採掘設備を加へつゝある萬達屋、新屯の二大堅坑が開鑿著手せらるれば總出炭高は年額四百萬噸乃至五百萬噸に達する事は、さまで困難でないとは權山理事の談である

▼此の炭坑はいつ頃から發掘されてゐるかを炭坑の當事者に聞くと、今を去る約六百年前鮮人がやつて來て高麗燒きを燒くため石炭を燃いた形跡があると云ふ、之等は實に吾々朝鮮住民にとつては面白い事實と云はねばならぬ、而して最近の開坑は明治三十四年支那人が行なひ、同三十八年一月に露軍が占領し、三月に吾が軍の手に歸したのだが、頃の其設備は極めて微々たるものだつた四十年の一月に滿鐵に引繼がれ諸般の規模は漸く壯大となつたのである

▼撫順炭坑は幾千の價値を有してゐるが、素より滿鐵に對する政府出資一億圓の內に此の炭坑は含まれてゐるのであるが、前記の如く礦量八億噸とすれば、假りに地下炭一噸一圓と見積るも八億圓の價値あり、若し一噸二圓と見れば十六億圓の巨額に上る、日露講和の當時、某新聞が『撫順炭坑一坑を占取した方が利益だ』と論じたのは必らずしも荒唐無稽の言ではないと云はねばならぬ

▼今日撫順炭の勢力は滿鮮を主とし內地に伸び、又南洋南支にも少なからず擴がれ、北は遠く西伯利亞に及んでゐる、其の最新式の採掘設備により、一日六千噸を採掘するも尚ほ供給は需要の一部にしか應ずる能はぬ盛況を呈してゐる

▼石炭の需要激進し、供給の大不足を訴ふるに拘はらず、滿鐵が九州炭の如く、其の炭價を二倍にも引上げず、止むを得ざる若干少額の增價に止むるのは、稱揚に値する、權山理事は云つた『滿鐵は其の總ての經營上、國家的と云ふ立場を忘れない積りだ、從つて彼の純營利會社の如き態度はとらない方針である。

▼殊に炭價の突飛な引上げの如きは、其の最大需要地たる滿鮮居住者に大苦痛を與へ、漸く其の緒に就きつゝある滿鮮の工業に及ぼす打擊は尠少でない、會社は炭價の引上げにより成程收入を增しても、前述の如き惡影響により假へば鐵道の收入とか、地方の經營とかによくない結果を及ぼし來る事は瞭らかである、左樣な動搖は滿鐵の力で避け得らるゝならば、可成之れを鎭靜さしたい、これ滿鐵が或る方面より何故かうした時代に炭價の相當な引上げをなさぬかと云ふ忠告や勸說を受くるに拘はらず、靜止せる所以である』と

▼撫順は此の無限の石炭があり、渾河の水があり、廣漠な土地がある所より、將來工業地として發展すべき狀勢を示してゐる現に最近三井系統の化學工業會社が經營する硫酸アンモニヤ製造を初め、又近く亞鉛工業も起るらしく其他に計畫中のもの二三あると云ふ、或人が將來必らず奉天、撫順の間は大工業地に化するだらうと云つたのは、時期の問題で何れ其の實現を見るかも知れぬ

◎吉林鮮銀開店期

朝鮮銀行吉林支店は客月末開店の豫定なりしも諸種の都合上延引せしが既に店長たるべき久保田積藏氏も鎭南浦より同地に向ひ各般の準備を整へつゝある由に付多分五月二十四五日若くば六月一日より開店すべし

◎潤雨と農作

近來兎角降雨多く陰温に過ぐる觀あるが農政當局の談によれば本年は旱春來寒氣酷烈なりしも雨少なく南鮮各地の如き苗代開始期に入り且つ追々插秧の準備を要するに拘はらず用水不足を訴へ甚だ難色ありき然るに最近降雨頻々たるは潤雨として稻作に可なるのみならず麥作其他にも頗る良好なりと

◎臺灣貿易商活躍

臺灣基隆の貿易商瑞泰號の支配人許兩容は過日來鮮朝鮮に於ける米穀並びに海產物の取引狀態視察中なりしが今回釜山商業者と大豆一千三百石の商談整ひ米及び海產物は漸次取引を開始すべく相談纒りたるを以て同氏は十二日夜出港の連絡船高麗丸にて歸臺せり(釜山)

◎忠北來年度豫算

忠清北道大正六年度地方費歲出入豫算は今回成立發表を見るに到りたり其概要を記さんに歲入經常部十二萬三千五百九十二圓同臨時部七萬四千五百五十五圓合計十九萬八千百四十七圓にして之を前年度豫算に比較するに經常部に於いて四萬六千九百餘圓の增加を見臨時部にて一萬三千餘圓の減少にて差引計三萬三千餘圓の增加を示したるが之は從來特別會計に依りたる臨時恩賜金授產事業費四萬○八百餘圓を地方費に繰入れたると屠場稅市場稅雜收入等の幾分增加したるに對し繰越金及び國庫補助金の減少によるものなり歲出に於いては經常部十萬八千五百八十五圓同臨時部八萬九千五百餘圓にて前年度に比し經常部の三萬六千餘圓の增加と臨時部の三千百餘圓の減少なり然して之が細目に於ては大體前年と大差なく新たに各郡一名宛の林業技術員を配置したる外從來の恩賜授產事業を附加したるなり(清州)

◎慶南鱈製造傳習

慶尙南道水產技手馬庭軍市氏は本月十日より蔚山郡に出張し同郡及び東萊郡の鮮人五名に鱈の煮乾及び締粕製造法の傳習を開始せるが斯業は恩賜授產事業の一なりと云ふ(釜山)

=清州=

▲蠶業組合設立 忠清北道にては今回新に管內各郡に蠶業組合を組織せしめ各組合に一個所宛の乾繭場を新設し以て生產繭品質の統一を圖ることとなし本年度に於て堤川、鎭川二郡を除く各郡とも既に乾繭場新築計畫を進めつゝあり清州郡の如きは既に工事に著手したれば來月上旬竣工を見るべく落成の曉は一回に八石一日二回宛の生繭乾燥をなし得べしと云へば斯業の發達に資すること大なるべし▲地主組合設立 昨春一度成立を見たるも第一回總會後種々の事情起り遂に解散するに至りたる清州郡地主組合は今回清州郡廳職員の斡旋により之が復活を見るに至り來る十四日午後清州公立小學校々庭に於いて總會を開催し組合規約制定及び役員選擧を行ふべしと▲芙江金融組合 過般設立認可の指令に接したる清州郡芙江地方金融組合は申清州郡守設立準備委員を選定し目下諸種の準備に著手中なる由なれば日ならず理事の任命を俟つて一切の設備を整へ遲くも八月頃迄には業務開始を見る可しと

=春川=

▲金融狀態 春川の金融は依然として不振近く實業組合は信用組合と改定し組合員株の增募運轉資金の擴張を行ひ漸々金融の補促に努め春川の發展を期すべし▲市場移轉問題 春川の市場は舊來の慣例を踏襲し邑內の中央に開かれ狹隘にして雜沓名狀すべからず殊に露店の飲食店等最も不體裁を極め移轉の急務を感じ當局は目下之れが考案中なり▲米價暴騰 客月下旬より米價暴騰したる結果市日の出石數俄に減じ一般先高を見越すの風あり本月七日春川市場の相場を見るに內地米十九圓より二十二圓まで鮮米十八圓より十八圓八十錢迄とす▲牛肉暴騰 江原道畜牛の移出日を逐ふて盛況を呈し昨今春川地方の牛市界の取引は稀に見る盛況なり之れが爲め肉商は忽ちに恐慌を來し百目十五錢を二十錢に値上したるが尙ほ騰貴の模樣なり▲泉田市移轉中止 泉田牛市は近く春川市と合併移轉すべく傳へられしも種々の事情に拘泥せられ當分中止の模樣なり

=大田=

▲石粉製造開始 大田春日町居住島津久太郎氏は昨年來大田を距る約二里大田郡九峯面に於て精米に使用する石粉の原料鑛石を發見し石粉製造を計畫し居たるも資金の事情に妨げられ未だ著手の運びに至らざりしが今回京城の[illegible]と共同し大田本町二丁目大田精米所附近に敷地を柳川某、三木某、江口某と共同し事務所及び工場の新設を爲し來る六月十日頃より事業に著手する筈なるが一日の製造高は十五貫俵約百俵の見込みにして販路は全鮮到る處にある見込みなりと▲石用叺の注文 大田附近に於ては近來重石其他鑛物の產出漸く增加し今回更に石用叺を[illegible]大田叺[illegible]改良組合に於ては當業者の希望を容れ叺を製造せしむべく[illegible]▲溫泉の[illegible] 大田儒城溫泉株式會社[illegible]▲記者招待 大田儒城溫泉株式會社にては同溫泉を廣く社會に紹介の目的を以て在京城新聞記者團十數名を招待する筈なるが期日は十三日の豫定なりしも都合により二十日の日曜日に變更せり▲大田有志の[illegible] 別項儒城溫泉株式會社が京城の新聞記者團を招待するを好機として在大田の有志家は同一行を招待して一夕の懇談會を開くべく目下計畫中なり▲基礎工事入札 大田驛舍の敷地基礎工事指名競爭入札は十一日午後一時より大田建築事務所に於て擧行したる結果[illegible]組の手に金千三百九十四圓にて落札せり因みに同工事は本月下旬頃より著手の筈にして[illegible]驛舍は不日取毀しに著手すべしと

=裡里=

▲裡里神社祭典 既報の如く春季祭典は十一日の臨時會に於て來る十六七兩日と決したるが今春は神殿の新築祝に合はざるを以て單に祭典の式のみに止め餘興は[illegible]擧式することとなれり▲朴郡守の招宴 朴益山郡守は嚴父還曆祝賀の宴を來る十八日午後三時より裡里[illegible]亭に裡里其他の重立つ官民數十名を招待し淸宴を張る由にて夫々案內狀を發したり▲基督教大傳道 日本基督教會は今回湖南地方に大傳道をなすの目的にて各地に集會を催し講演をなし居れるが十三日十五日の兩日は裡里に於ても同樣の催しあり新義州敎會牧師村上治、木浦敎會牧師竹內虎也の兩氏の講演ある由にて信徒は勿論未信者にも重立つ官民には廣く案內狀を送りたるが十三日の午後は婦人會を催し是亦未信の夫人令孃へ對し案內をなす筈なり

人事消息

▲松寺竹雄氏(平壤覆審法院檢事長)十三日朝入京天眞樓へ
▲荒瀨平次郎氏(駐箚軍司令部囑託)十二日釜山に來著數日滯在の筈
▲堀原文一氏(總督府水產課技師)水產試驗船[illegible]の爲め十二日午前釜山著大原水產組合長と共に同船を檢分し其他所管事務の打合をなし同夜歸任す

纛島へ人の波

本社主催 家庭的大野遊會
黄金町電車交叉點の大混雜

徂く春の一日を心ゆくまで遊び暮さうといふ人のために旬日前から大々的に計畫された京城日報、每日申報兩社主催の纛島奉恩寺野遊會のいよ〳〵催されるといふ十三日朝は前日まで意地惡く降りそゝいだ雨も

◆全く霽れて五月晴の好天氣、豫報の如く野遊會開催合圖の煙火が漢陽公園の上に轟き渡る八時頃から、待ち構へた全市の人が動き出した、合圖は無くとも必らず催しのあるべきを上々天氣に見越して黄金町の交叉點に光熙門の乘換場に押寄せた人は非常なもので電車は何れも滿員又滿員で到底纛島行の人を

◆悉く收容する事が出來ず車數を殖して運轉したが後へ〳〵と詰かけて來ために黄金町と光熙門の二箇所は電車を待つ群衆が人波を打つ騷ぎ殊に光熙門から先は單線のために更に運び切れぬ爲めに諦めて膝栗毛を驅る人が頗る多く光熙門から纛島に至る人は是等の人を以て埋められた位であつた此の素晴しい人出に京城、淸凉里、往十里等の

◆人力車數百臺が集まつて來て絶えず往復してゐた桑の花の咲き亂れ麥の穗の波打てる、雲雀の高鳴く春の野道を輕い袖を飜へし行くの多き、十二時に至るも影を絶たず內鮮人を合せて無慮五萬と算せられた、纛島の入口には數箇所に兩社の社旗を揭げ

◆案內圖を設けて野遊會場を示し、社旗の下には本社幹部員詰め切つてゐた、而して本社の休憩所東拓出張所模範場纛島出張所の休憩所では茶菓を饗し殊に東拓では高橋所長以下模範場では久次米技師以下所員總出で

♣赤い腕章を附けて甲斐々々しく

接待に勗めて居た、その附近には林檎と梨の花の眞ツ盛り、輕ろやかな梨の花の高雅な香りが此の邊り訪ね寄る人の衣袂に薰ずるのは、その白い花の色と共に、心持がよく、普通學校下の渡船場に行けば、此處に夥多の賣店など各所に設けられ

ら應援に來た憲兵、及び揃ひの法被を著た纛島消防組員百餘名と共に

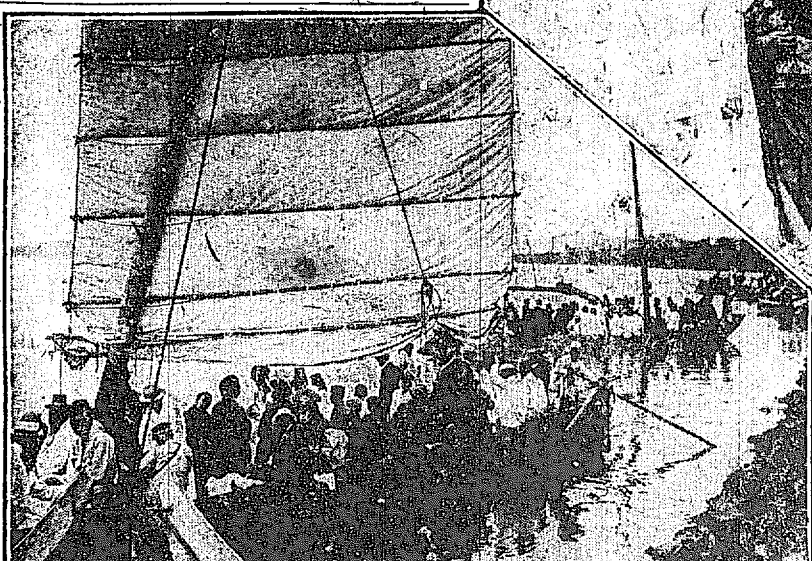
♣渡船の取締りに努めたゝめ些の故障もなく六丁近くある河中に赤い旗の印がへる渡船が舷を接せんばかりに往來して川を狹めく櫓櫂の音は船中に打興ずる人々の笑聲と相亂れて靜かなるべき春の川邊は笑聲歎語聲すしき一大歡樂場と化し、川の兩岸には約半道に亙つて人が集まり

♣戰場のやうな賑ひを呈した船に乘つた人は對岸に直ぐ上るもあり、青疊を行くように靜かな滑つてゆく舟の中に杯を上げて兩岸の春色を賞しながら奉恩寺下に向ふもあり、又は水源地に向て行く者もあり頗る盛んであつた（午後一時半纛島渡船場にて）

◆命懸けで乘り込む
歐露各停車場の雜沓

最近歐露より長春に來れる某氏の談に依れば目下歐露各地の停車場內は貨物にて滿され之れに加ふるに多數の乘客あるを以て其の雜沓は名狀すべからず、乘車切符を求むるにさへ二三日を費し漸く切符を手に入れても直ちに出發することを得ず尙停車場內に佇立して一兩日間待ちて始めて乘車なすことを得るが如き有樣なり然して余の歸來せる途中列車のクルスキー停車場に著するや待ちに待ちたる群衆は潮の如くプラットホーム內に雪崩入り各自先んじて乘車せんと殆び車室の「空席なし」と叫ぶをも顧みず後より押寄せ參り其雜踏云はん方無し、又モスコウアレクサンドラスキークルスキー停車場にても同樣にして車中には殆んど立錐の餘地なき程なりと（長春）

♣此の多數の群衆を對岸に送るべく、龍山から廻された莫蘆、蓆なんと敷き詰めた家形船、傳馬、小船など何れも赤の小旗を揭げて人を積み入れ、多きは百人上から少き時も三十人位づゝ間斷なく渡しては戾る光景は凄まじいばかりで纛島派遣所よりは憲兵總出で京城か



纛島の大野遊會
（上）纛島模範場の花盛
（下）奉恩寺行きの渡船

十四名激浪中に漂流す

江原道三陟郡遠德面莊湖港近海を去る二十八日注文津へ向け航行中なりし帆船慶尙號（四十一噸）及び釜山に向け航行中なりし住福丸（十八噸）は折柄の風波を莊湖港に避難せんと入港の際激浪の爲め衝突し兩船共破壞し兩船の乘組員十三名は木片に取縋り漂流したる騷ぎに里民五十餘名出動小舟を仕立てゝ救護に努めたる結果全部救助したるが兩船共修繕不可能の慘狀を呈し二隻の損害合計二千二百六十圓積荷約一千圓なりと

大阪商船遭難 多聞丸沈沒
鹿兒島縣油津にて

大阪商船チャーター船第十一多聞丸（二千七百三十九噸）は臺灣より原料糖を滿載して横濱へ直行の途中風波の爲め鹿兒島縣油津へ避難の際淺瀨に乘揚げ大破損を蒙り沈沒せり、門司海事工業會社支店より十三日朝技師を現場へ派遣せり（門司）

刺身庖丁で割腹
妻の離別を悲しみて

九日午後十一時五十分頃慶南馬山府本町四町目大津光三郎方表庭先にて岡山縣上房郡津川村當時大邱大和町田村政市方菓子職人矢部廉三（三三）が銳利なる刄渡七寸の刺身庖丁を以て割腹して生命危篤に陷れる椿事あり自殺者廉三は本年三月縊死を遂げし浩太郎の實弟にして昨年三月今回慘劇の場所たる馬山本町四丁目大津光三郎の實妹はつ（二〇）を內緣の妻となし實兄浩太郎が縊死して一家離散の當時迄浩太郎宅に同居し居たりしが浩太郎一家が離散したる爲め兄光三郎も妻のはつも廉三の將來には見込なしと三月二十五日廉三とはつとの仲を離別させはつを光三郎方に引取りたるを憤り屢々復緣を迫りたるも聽せざるより廉三は心ならずも前記の田村政市方の菓子職人となり働き居りしが九日大邱より馬山の光三郎方に到り光三郎と口論の末前記の始末に及びたるものなりと

飛下りて重傷

十一日午前十一時半頃京城電氣株式會社の義州通行き七十三號電車が黄金町通り若草町停留場附近を進行中乘客なる黄金町三丁目居住の有吉しか（二七）が飛降りをなし大地に打倒れ後頭部を强打し長さ五分深さ骨膜に達する重傷を負ひたる騷ぎに直ちに附近の回生醫院に連れ行き應急手當を加へしが治療三週間を要すべしと

藪醫者

咸南德山郡鎭上面洞坪里賣藥行商人朴允祚（七三）は病家を訪うて治療投藥をなし且つ鍼術を施して廻り居たるが四月二十五日平原東松面にて金基順の妻林眞伊（三六）に投藥をなし其後再々鍼術を施したるが夫れ以來眞伊の病氣は益々重り行き遂に死亡したるを同面の醫生が同所憲兵分遣所に届け出で臨檢に依り全く右の次第と判明し其場にて朴允祚は傷害致死として引致さる

投錨の儘沈沒

仁川本町慶田組所有艀船第四川內丸（二十四噸）は七日夕刻玄米六百二叺を積載し九日入港の須磨丸に積込む可く荷役棧橋を去る左側十五間餘の處に投錨し居たるに折柄風强烈にして浪荒かりし爲め遂ひに投錨のまゝ吹き流されし船艀は棧橋に打ち付けられて破損すると共に海水浸入し瞬く間に沈沒したるが損害は約三百圓にて荷主は鳥井商行なりしと（仁川）

養母を恨みて

京畿道利川郡馬長面冠里居住の金興文（四八）は八年前安城郡寶蓋面其佐里居住の亡金完市の妻安永分の養子となり同棲中大正四年五月其の所有家屋を抵當とし金策せんことを養母に相談せしも拒絶せられ爾後放逐せられたるより之れを怨み同月二十日放火して居住の一部を燒燬せしめたる一件は此程京城地方法院の公判に附せられたり

夏場所
（十三日午前八時著電）

△二日目勝負（續）

勝	負	勝	負
大の高	琴ケ浦	入甲山	淸瀨川
大潮	石山	源氏山	錦島
宮城山	鶴渡り	九州山	玉手山
千葉崎	兩國	伊勢濱	駒泉
栃木山	紅葉川	大鳴門	西の海

△大錦に眞砂石は待つた無しに立ち上り眞砂鋭く突張り左を當てゝ押進みし時は錦タヂ〳〵危かりしが土俵を廻つて殘し眞砂の左手を引張り込むや右手に卷いて强引に持ち出して錦の勝

△中入後

△大の高に琴ケ浦は左四ツ琴が强引の小手投げに行くを外掛けに浴びせ倒して高の勝△淸瀨川に入甲山は淸瀨寄き進むを廻り込み突き放して入倒して高の勝△石山に大潮は互ひに待つたの數を經て漸く立ち上るや石素早く懷ろに飛び込み諸筈に當てゝ揉み上げ押進むを大潮上手より殺して廻り込み押倒して大潮の勝

△源氏山に錦島

源氏スイと立ち錦の突き出ハナを叩き錦タヂログところを逸さず二本差となれば錦之れを門に絞つて呼吸を圖る內錦をのまし强引に極め込まんとするを掬ひ投を打ち源氏の勝は大相撲△宮城山に鶴渡は右四ツ鶴の寄進むで例の突き落しに行くを宮城殘して寄進み突き放して宮城の勝△九州山に玉手山は玉立ち上つて叩き飛び込んで內掛けに行くを突き放して押倒し九州の勝

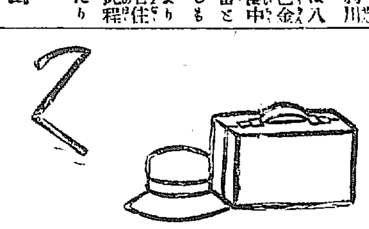
△兩國に千葉ケ崎

は當日第一の好取組にして本社の懸賞豫想を募りしものなり、双方よきところを立たんと仕切直し待つた十數回の後漸く立ち上るやバッタリ左四ツに亙り兩腰足瓣を見せて亙り進み下手投を打つを千葉殘すと共に上手投を打ち返へせば美事に極まつて千葉の勝は大喝采を博したり△駒泉に伊勢ケ濱は駒進二無二突きかけ叩きしも伊勢頓著せず押進みそのまゝ押切つて伊勢の勝△栃木山に紅葉川は紅葉激しく突張るを栃木掬いて反對に突き進み遂ひに突き出す

△西の海に大鳴門

は鳥渡突き合ひ鳴門叩き西の泳いで立ち直るを透かさず突き出して鳴門の勝、大喝采ごルこて引出したり

讀者文藝
（一等に五十錢 佳作に籍券を呈す）



△籍めゑ

○一等 本町二丁目八六番地 笹野武市

▲佳作 ▲京城 碧吉 ▲大邱 佐々木初心 ▲京城 今宮 ?市 ▲京城 淸水つや ▲京城 中川靜 ▲龍山 多美郎

△次回題（上圖の通り）

自業自得 京畿道金浦郡揚東面新亭里[illegible]妻李氏（六二）は七日[illegible]

讀者課題募集規定

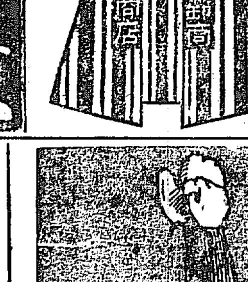
アナタの胃病にはマーゲン
八木田博士御處方 島田博士御鑑査
强胃消化錠
＝本劑の特色＝
二博士確證の本マーゲンは藥式胃病藥さ異り其卓効は根本的に胃の機能を盛んにし消化を佳くし食慾を增し胃弱を治し著しく胃を爽快にす
大阪市東區上本町五丁目 田畑保藥房

營桑種子 土佐本場 最特撰 壹斗 四圓五十錢 四十二圓
營桑種子 土佐本場 特撰 壹斗 三圓七十錢 三十五圓
營桑種子 取引方法 一切前金
忠南鳥致院 朝鮮興農園（振替京城三七番）

金剛糖

軍隊拂下被服類 特別廉價販賣
夏物 メリヤス。シャツ サルマタ。ズボン下 雜貨 メリヤス
京城北米倉町電一一二番 卸商 村上商店

質 京城黄金町二丁目入（永樂町停留所北） 堀佐營業所 電話六三九番



厚司蚊帳足袋卸問屋 仁川港富澤商店

ぢの養
內用 外用 淸痔丸 淸痔劑
兩劑を併用せば面白い程能く効く
藥價 內用藥、半円、一円外用同價
本舖 名古屋京町 荒川長太郎
全國到る處の藥店に販賣す

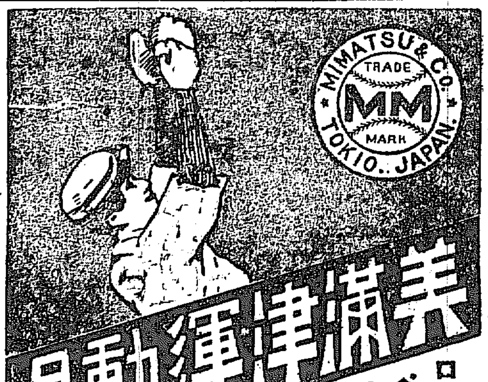
ミツワ家庭藥販賣 朝鮮特約店
時候の變り目にミツワの藥を御用意
萬年筆修繕
熊平支店 京城旭町二ノ六 東京パイン萬年筆出張所 長電話六二四番 振替京城二二番

【入院隨意】
京城西小門町二一番地（舊醫院跡）
田中丸病院
院長 醫學士 田中丸治平
醫師 上野和夫
電話八入五番

月刊商報御一報次第近呈
夏物品揃
帽子各種 シャツ各種
手袋靴下 猿股半月
和洋手拭 洋傘和傘
石鹸化粧品 曹達煙草
櫻ビール 三矢サイダー
其他內外 雜貨一式
釜山大廳町一丁目
明治屋本店
振替京城一〇七番 電話三四八番

塗料船具油類金物
土工用器具及材料
雨覆天幕製作販賣
近江帆布會社製品
朝鮮一手特約店
同免許船燈製作販賣所
旗印石油合田販賣所
仁川本町一丁目 村谷本店 電話長五六 振替京城五九番
支店 仁川府支那町 村谷石炭部 電話八一九 振替京城五九番
平安北道義州城內 義州印刷所 電話長二 振替京城九八一

產科婦人科專門
京城明治町二丁目（元漢城病院下横通川崎大正醫院跡）
中央婦人病院
（手術室病室各々完備）
院長 衣笠 電話二三四〇番



ローンテニス ベースボール フットボール ヴォレーボール オリンピック其の他總ての運動用具一切の
美滿津運動具
製造元 東京本郷五丁目 美滿津商店 電話下谷八四五

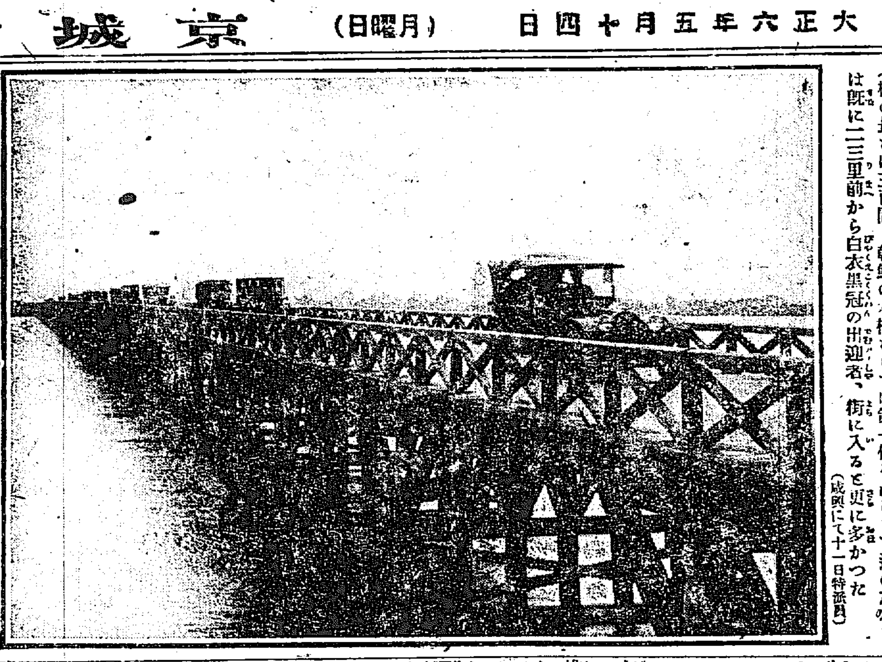
海川魚御料理 鰻かば燒 柳川切 すつぽん料理
京城旭町一丁目 權平庵 電話二〇四六番
御客樣の御最負に反かぬ樣にと客室料理萬端に一大改良を加へました是非共御散步旁々御立寄被下まして一度御試しを願ます
中井ユク 謹白

る に先ち下車せんとしたる際……に墜落し左足關節部以下の骨を碎き尙ほ他にも二箇所の打撲傷を受けたる

（一）二等十三名 清水……藤井……[illegible]

◇李王殿下と成興萬歲橋

殿下の自動車は十一日午後四時成興平野の薫風を衝いて一路成興西方の入口城川江上の萬歲橋を渡る（橋の長さは三百間、朝鮮の木橋としては第一位を占める）道の左右には既に二三里前から白衣黒冠の出迎者、街に入ると更に多かつた（成興にて十一日特派員）



◇是から賑ふ 延平島 水揚高八十萬圓

石首魚の盛漁期になると陸上の繁昌は前述の如く素晴しい者であるが海も又偉大な奇觀を呈する、古代の木造戰艦に似た中船や朝鮮船や鮟鱇船は殆んどが千艘內外も一箇所に集まるのであるから、此れを陸上から眺めると島 **△帆柱の林に圍まれて居る** かの如き觀を呈し海原は一面船影に埋められて、舷々相摩し艫艪相銜ち喧騷、怒號は海神の咆ゆるが如き有樣である、此等の船は潮の具合を見計らつて一齊に沖に出て從漁するのであるが此の場合も迚北たる大海原には數哩に亙る長い／＼船の横列が出來て夫れが更らに涯しなく續く其就漁船を縫ふて四五百に餘る買船が **△滿帆に風を孕** ませて縱横に行き交ふ、發動機船が驅る、と言ふのであるから、其の偉大なる光景は到底筆紙に盡し難い程である、斯樣に多數の船と人とに依つて漁獲せらるゝ額は如何程に達するかと言ふに盛漁期僅か一箇月間にして八十萬圓內外の水揚高はあるであらう、海に潛む無盡の富も數年前迄は其の一部分を獲るに過ぎなかつたが朝鮮の無限の富を開拓し得たのである、**△漁業界の發達** は遂ひに此漁獲物處理は極めて有望で、漁期になると沿岸の魚商は多額の資金を懷にして延平島に至り、間斷無く買船を派遣して買ひ集めさせる一方に石油發動機船を以て一刻の猶豫も無く本土に運ばせるから就漁者は水揚と共に現金を手に入れる事が出來るのである然も朝鮮に於ける **△石首魚の需要** は無限であるから資本家は爭つて買出しに勵める、それが爲めに獨り朝鮮のみならず內地からも漁船が出漁する爲め年々延平島の石首魚漁業は盛んになつて行くから此の趨勢を以て進めば、此の短かい漁期に百萬圓以上の漁獲を得る樣になるのは遠い將來ではあるまい（仁川）

◇御物「晴天の鶴」

天皇陛下より立太子禮記念として皇太子殿下に賜はる「晴天鶴」の三幅對は京都の山本春峰畫伯に揮毫を命ぜられ爾來數十日間江州膳所の別莊蘆花淺水莊に於て丹精を凝らせしが去る十日上納せり同畫は二尺幅長さ四尺五寸、中央は富嶽に日出、右は海岸の老松、老松は松樹點在の飛瀑にて何れも上空に白鶴數羽翺翔し居り群青雲に綠青の松金泥の霞といふ大著色なり山水に土佐風を加味したるもの皇后陛下御生母野間幾子刀自は內覽を希望し九日態々膳所畫室に赴き一覽して大に樂しみ其の前に謠曲羽衣を謠ひたる由（大阪支局）

◎淸々しく眺宜き 初夏の郊外

仁川の郊外として散步に適して居るのはなんと言つても萬石洞であらう桃や林檎の花が新綠を背景として美しく咲き盛つてゐる山根町から **◇黑橋に出て猫島◇** あたりを眺めると滿々たる潮に萬石洞も遙かの島も泛き出て居るかの樣初夏を讃美する蛙の韻律が囀びすしいのも海の萬石洞にふさわしい情趣を有つてゐる、山根町は夏に宜く殊に夏の海と山との眺めに無限の親しみがある「更らに夏の夕べ黑橋の袂とりに立つて涼を納れつゝ夕燒の猫島の **◇雄麗な景色を眺◇** めたならばどんなにか愉快であらう坦々たる萬石道路に添ふた水田の畔を步めば無數の青蛙、縞蛙など律を弄するも可笑しく、青草を踏む觸感の柔さも心地宜い八景園は柳暗花明の文字通り八重櫻は盛過ぎて微風にハラ／＼と散り **◇綠は深く鶯の飛◇** び交ふ樣など得も言はれぬ情緒を味はせる、猫島から仁川港內外を望めば各國墓地の眺めの如く俗ならずして靜雅の趣きがある（仁川）

◎既婚生徒減少 鮮人教育上慶ぶ可き現象なり

仁川公立商業學校生徒在籍數は百六十八名にして年齡は一年生平均年齡十七年六月、二年生十八年九月、三年生十八年一月にして最年長者は二十七年六月、最年少者は十三年五月全校生平均年齡は十八年一月なるが近年は年齡略一定し教育上良傾向を呈し居れりと然して前記在籍生中未婚者は七十四名既婚者九十四名にして昨年に比し既婚者の數を減じたるは慶ぶ可き現象なりと（仁川）

◎寒い年には漁獲物が多い

本年一二月は稀有の嚴寒なりし爲めにや魚類の來游は一潮遲れ居る者の如く觀測され居る由にて例年に比し漁獲少く仁川市場には未だ著しき水揚無しと因に從漁者は多期中寒氣激しき年は漁獲物多ければ潮の遲速は何等影響無しとて樂觀し居れりと某漁業者は語れり（仁川）

五月人形と鼠

五月五日の端午のお節句は、とうに濟んでしまつても、まだ太郞さんとこのお座敷のお床の間には、いろんな五月人形が飾つてありました。

お母樣が、おしまひなさらうとしても、太郞さんが、もう一日、もう一日と云つて、今日までもまだ飾つてあるのでした。

けれども、さういつまでも、五月人形を、お床の間に飾つて置く譯にもいきませんので。

『明日は太郞さん、しまつても好いでせう。』

『明日？、明後日ではいけませんか。』

『だつてもう、五月人形を飾つてある家は一軒もありませんよ。だから明日はしまひませう。』

『ぢや、今日きりね。』

と太郞さんは、お座敷へ行つて、なごり惜しさうに五月人形を眺めてをりました。

その晚の夜中頃、ノコ／＼お床の間近くやつて來たのは、一匹の鼠でありました。そして飾つてある五月人形をヂツと見ましたが、

『まだ飾つてあるな。大方宿なしの人形に違ひない。さうだ、きつと宿なし人形だ。あはゝ、あはゝ。』

と云つて笑ひました。すると桃太郞が、

『默れツ！宿なし人形とは失敬ぢやないか。太郞さんが、もう一日、もう一日と仰しやつて、今日までかうして飾つてあるのだ。明日はいよ／＼箱の中にしまひこまれるんだ。宿なし人形だなんて、そんな失敬なことを云つてはいけない。』

と叱りつけますと、鼠はクス／＼笑つて、

『桃太郞が、大きな顏をしてゐるな。生きてる桃太郞なら、怖くもあらうが、人形の桃太郞にはちつとも怖くはないぞ。日本一なんて旗立てゝゐても、俺はびく／＼もしないぞ。』

と云ひました。桃太郞は口惜しさうに目玉をくる／＼させましたが、鼠が云ふ通り、人形の身でありますから、飛びかゝつて押へつけて、ぎう／＼云はせてやる譯にもいきませんので、たゞ、大きな目玉をして、鼠を睨みつけてゐるばかりでありました。鼠は今度は、桃太郞の隣りに立つてゐる加藤淸正のお人形に向つて

『淸正公樣か、片鎌槍を持つて、立つてゐるところは、いかにも強さうに見えますね。だがお前さんもお人形なら、生きてた時には強くもあつたに違ひはないが、人形になつちやつては、もう駄目だよ。ねえ、さうぢやないか淸正公のお人形樣！』

とかう云つて、大きな口を開けて

『あはゝ、あはゝ、あはゝゝゝ』

と笑ひました。加藤淸正のお人形は、默つて鼠を見下ろしてをりましたが、鼠は好い氣になつて、

『それでも昔は朝鮮で虎退治をなさつたこともあるんだつてね。でも今はこの鼠から馬鹿にされてさ。あはゝ、あはゝ。』

と又笑ひました。加藤淸正のお人形は堪りかねて、

『怪しからん奴だ。鼠だと思つて許して置くと、二度も三度も慾に向つて……』

『何だと。俺に向つてどうしたと？』

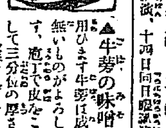
『片鎌槍で突くなら突いて見ろ！片鎌槍の片鎌を、この俺が、ポキリと食ひ折つて見せるから。』

『云はして置けば慮外千萬！では見事に食ひ折つて見ろ、やせ鼠！』

と右の手に持つてゐた片鎌槍を、左の手に持ちかへましたので、鼠はびつくりして、逃げ出さうとしましたが、もう間にあひません。シユツと片鎌槍でもつて鼠は田樂刺し！

『チユウツ！』

と一聲、鼠はとう／＼打死!!（終）（りう）



▲牛蒡の味噌燒 これに用ひます牛蒡は成るべく太い無いものがよろしう御座います、庖丁で皮をこそげ水洗ひして三分位の厚さに輪切りにして一ゝ茹でゝから鰹節の煮出汁と醬油で味をつけ下煮をなし三四個位づゝ細い竹串に刺し其の切口へねりつけ其兩面を炭火の上で網に載せて燒けましたらそれに粉山椒を少々ふりかけ串のまゝ皿につけて出します、ねり味噌の拵へ方は普通味噌を摺鉢に入れてよ[illegible]

西本願寺別院（若草町）五月十三、十四、十五の三日間午後二時より三日數、十三日午後八時より日曜說教、十四日同日曜說演

明君道中記 第百四十四席 田邊南龍口演

安藤對馬守は家來に申付け、若し倅が兎角申して參らざる時は腕づくにても引立ろと大いに怒る、仕方がない若侍新之亟は子息右京進の部屋に參りますと近日十七萬石十八萬石二十四萬石の平岩本多鳥居の三大名を生捕りに參ると云ふその前日で何事か考慮でもするかと思ひの外頻に論本を見て居ります、家來は驚きました 新『申し上げます』右『何んじや』新『只今御父君御歸邸に相成り殊の外御立腹にて倅重長を直ちに御同道いたせとの仰せにござりますれば御案內仕ります』右『左樣か用あらば參れとの仰せか』新『左樣にござります』右『父上に宜く申し上げてくれ、直に御伺ひ申すべきなれど今日は幸ひにして公儀のお眼鏡に叶ひ大切なる御役を仰せ付けられ將軍御眼代の右京進重長、されば父たりとも先方よりの招きて輕々しく參らば天下の御威光に關るに依つて、用事あらば對馬自身此方に參れと申せ』新『ハツ』新之亟は直ちに引返して參る 對『新之亟』新『へエ』對『倅を連れて參りしか』新『お出にはございません』對『何んと參らん、如何いたしたわけだ、其方にも申し付けた通り兎角を申さば引立參れ、何に引立られぬ、何んじやと此方の申した通り彼に云ふたか、何んと申した、何右京が昨日今日までも叱るものを捨ても出たが、何は幸にして公儀の御眼識にて大切の役目を仰せ付られた爲、ウン將軍家御眼代故に父たりとも招き應じて參られぬと、白痴、天下の威厳に關はると、默れ／＼其方まで是を聞き對馬の耳に入れるとは不埒な奴、對馬守は尙も立腹をするかと思ふとニツコリ笑ひ 對『オー出かした天晴れである、子を見るは親にしかず家來を見るは主にしかずと申すが我は見損じた、イヤ天晴れ／＼、我子ながらも迚も對馬の及ぶ所でない』と賞美をした共では始から怒る事も要るまいと家來は思ひました、玆で對馬は右京の部屋に參り右京に會して語る、右京進は家老の荻仲右衛門と云ふ者を召連れて行くと申しました爲に對馬守も大變安心をした、此の仲右衛門を供にするやうなれば必ず勸めを完うする事が出來ると思ひました、扨此仲右衛門は安藤家の家老で年は七十餘歲になりますが、悧恰か馬鹿か更に判然しないそれで女中衆の中には馬鹿と思つて常に仲右衛門と云はずに馬鹿右衛門／＼と呼んで居ります、或日多くの女中衆が仲右衛門に對つて 女『一寸荻樣』荻『ハア、何んじやな』女『貴下樣は御酒は家で仕居いますかそれとも下戶でございますか』荻『拙者は酒好でな酒ときては目も鼻もござらん、イヤモウ甘い物は見るも厭になる』女『オヤマア然うでございますか、明日貴下樣にそれでは好きなものを御馳走申しませう』荻『それは有難い』と約束をして大勢の女中衆も別に用もございません故、是から牡丹餠を澤山製へました翌日仲右衛門の來るを待つて居ると荻は女中の部屋へノツ／＼と遣つて參りました 女『オヤマア能くお出なさいました事』荻『お約束の通り澤山美味い物が出來て居りますから』と彼の牡丹餠を取出しました 女『さア荻樣召上つて下さいまし』嘸かし仲右衛門が困るであらう、その樣子を見て笑つて遣らうと思つて居りますと荻はニコ／＼しながら重箱の蓋を取つて 仲『オヤ／＼、是は』と箸を取つてそれを喰出しましたが遂にその重箱の牡丹餠を殘らず喰けてしまひました 女『マア呆れた事荻樣貴下樣は甘い物は召上らないと仰せになつて……』仲『アハ、、、、イヤ拙者は甘い物を見るのは厭だと申したが食るのは好だ』玩弄にしやうとした女中達が反に仲右衛門に玩弄にされました、斯る器量ある人物でございますから物の役に立つは云はずと知れた事でございます、如何なる技倆を顯はして右京進を助けますがそれは追々申し上げる事にいたします

一つ持たせた 木村屋パンが 可愛い笑顏の種をまく（京城明治町 電二八七〇）

曆 五月十五日九星 舊三月廿五日丁巳 木命三碧東除北負

わさか ファーザーを御用ひあれ 一圓 京城黃金町三丁目 電話二九四九 山田文殊堂藥房

易 周易 岡村介石 石堂 明治町二丁目

◎マラリアに一番 ヨクキククスリハ 龍山林藥房製劑の マラリア特効丸 金十錢三十錢五十錢 郵稅二錢 假名セモノアリ御注意 本舖 龍山 林藥房 京城本町二丁目 代理店 山岸天祐堂

演藝案內

黃金館 電話二六三七 六五二

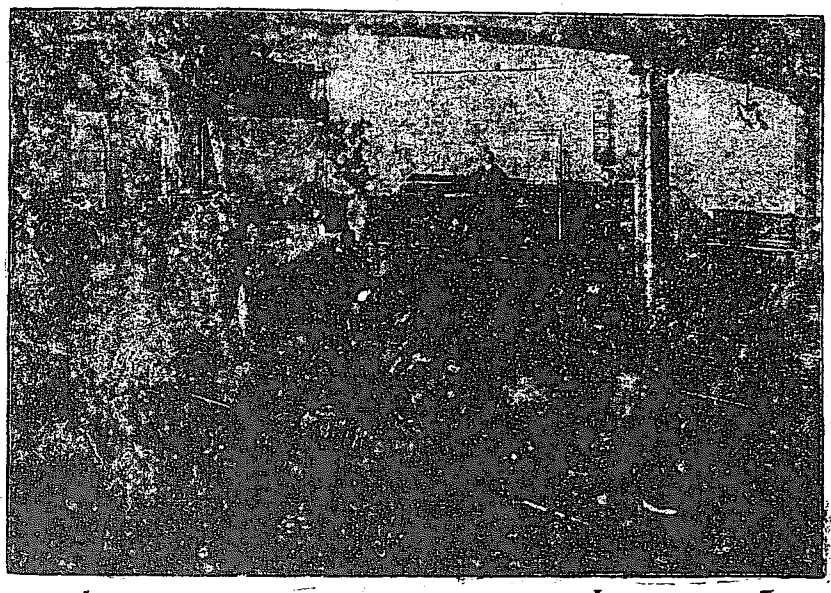
御成座 電話一九一

壽座 京城壽町 電話五七八番

大正館 櫻井町 電話八七三

有樂館 早川演藝部 直營 電話（局上）四九七番（局下）二〇五番

ライオン齒磨（はみがき）



ライオン講演會地方巡廻講演の實景

齒は萬民の寶

―齒牙衛生の「講演會」―
―純良齒磨の「ライオン」―
―完全齒刷子の「萬歲」―

一本の齒が一生を支配する

一本の齒が人間の一生を支配し、延いて國力を左右するとは、聞いた丈で、其影響の大に驚かずにはゐられません。

一疋の白蟻が巣つた爲めに、芳野の山の櫻は、だんだんに立ち枯れて行くと云ふではありませんか。

しかし、それは目前の事實でもあり、又よく解つた理窟でもありますが、それが我身に迫つて來るまでは、誰も馬耳東風と聞き流してゐるのが人間の淺墓さであります。

私共は之を思ふと、國家の爲め、又個人の爲め、一日もぢつとしてはゐられません。それで思ひ立つたのが、頗て諸君のお耳に達してゐる筈の我ライオン講演會の事業であります。

ライオン講演會の旗揚げ

ライオン講演會は、實に大正二年二月、東京青年會館に旗揚をして「國民の健康は齒牙の衛生に關係す」と云ふ宣言を發表したのに始まります。そして當時朝野の名士の來援を乞ひまして、我講演會は專ら國人の爲め率先此宣言の實現に努めむと、當夜の會衆二千有餘名の前に誓つたのであります。

爾來、其宣言と誓とを實現すべく、我講演會の一行は、齒科醫師を組織の中心として、之に社會教育に關する日常一般の修養道德を說く講師をも參加せしめて、發會式を擧げた翌月から、既に滿四年、毎月都市町村の小、中、高女、師範、及び各教育會、地方青年會、工場、諸團体等の招ぎに應じまして、絶對無報酬の齒牙口腔の衛生に關する通俗講演會を開きつゝある次第であります。

幸ひに到る處、皆我ライオン講演會の精神を諒として、常に熱心なる歡迎を與へられ、講演會は毎會盛會を以て續き、其結果地方學生又は青年の間に、齒牙衛生思想の勃興を觀るに至つたのであります。其例の詳細を申せば、自讃自贊になりますから略しますが、一地方に於ける一講演會終はる毎に、我會に對して寄せらるゝ感謝狀は實に山成す有樣なのであります。

若い時程齒の養生が大事

斯う私共が特に「若い時代」の國民を撰んで齒牙口腔の衛生講演をする所以は、齒の養生と云ふものは若い時程大切なもので、又若い時にすれば最も効果のあるもので、私共は、此「若い時代」を齒牙口腔衛生の危機として警醒するのであります。若し夫れ、老人は聊か手遲れの氣味があり、又極小さい時分は寧ろ親達の責任であつたり、結局私共の直接に近いて說くべき敵手は、學生青年と云ふことになるのであります。

殊に學生青年には、彼等自身、やがて社會に打つて出づべき當面の責任と云ふものがありますから、此責任を果すのには、どうしても身体精神の健康を土台としなければ決して成功しないのであります。

其成功は、一本の齒の健康不健康が、大なる支配權を持つのであります。

齒の健康は成功の大原因

少しく之を說明しますれば、人間の成功の原因は身体の健康に基き、身体の健康は主として胃腸の健康、胃腸の健康は取りも直さず齒の健康と云ふ事に歸着するのであります。

單に身体の健康と云ふ事を容易に言ひますが、身体の健康は全く胃腸と齒との密接な共同作業に外ならないのであります。學者の統計では、人間の病の九割は消化器の不良であると申しますが、其消化器不良の原因を成す齲齒は九〇％であると申します。原因と結果との關繫が、如何にも明白に見えるではありませんか。

身体の健康は精神力の根源

其上、身体の健康は精神の能率の根源であります。私共の胃腸が順調に其機能を營んでゐますれば、精神の能率も、身体の健康も、共に完全であると云ふことになるのであります。

米國有名の記者 Orison Swett Marden 博士は、「頭腦の良否は胃の消化程度に因る」と切言してゐます。ほんとうに消化器を完全に保てば、頭腦の活力は確的であります。此頭腦の活力、即ち精神の能率は直ちに身体の能率に關繫し、又隨つて事業の成功に關繫するのであります。而して其根本原因を成すものは申す迄もなく、齒の健康であります。

今丁度手許に屆きました英國齒科協會から發行される最近の一雜誌から、兒童少年の齲齒に就いて述べたものを左に拔いてみます。

齲齒と身体全部との關繫

「齲齒それ自身は、直接危險な病氣ではないが、それが誘因となつて、いろいろの病氣を惹き起すものであります。殊に幼年時代に齒が惡いと、それが營養不良の基を成して、精神や身体の發達を大變妨げることになります。それと言ふのも、齒の惡い爲め咀嚼不完全に陷り、心身發育の時代に最も大切な消化器を障害するからであります。又口腔内に出來た細菌が頸部の淋巴腺を侵して結核に罹るやうな素因を作ります。それればかりではなく、齲齒のある口腔内には、常に澤山の腐敗物や病原菌があつて、それが知らず識らずの間に嚥下されますから、身体中の諸所に惡い影響を與へます。この惡い影響がだんだん積り積つて來て、其力が非常に强くなり、身体が之に抵抗することが出來なくなりますと、兒童は必ず病氣に罹ります。」

齒と全身の健康との關繫は實に斯くの如く密接なものでありますから常に、又誰もライオン齒磨のやうに世界に知られた信用の厚い純良齒磨を必ず用ゐることにしなければなりません。

胃腸の弱る時には齒の養生

近く夏が來ます。胃腸の弱る時はこれからですから、齒の養生は胃腸の養生だと思つて、專心朝と食後と寢る前とには、乾度純良なライオン齒磨を使はなければなりません。

毎度注意する事ですが、齒の惡くなるのは夜の睡眠中、即ち口を動かさない時、齒の間に挾まつた食片が醱酵して乳酸をつくり、其結果琺瑯質を分解するのですから、是非口中齒牙は寢る前に於て最も丁寧に純良齒磨で保護しなければなりません。

殊にライオン水齒磨は手輕で、此場合の使用に最も適當してゐます。其の用法は水齒磨一二滴を微溫湯に滴らして含嗽をすればよいので、誠に手數のかゝらない清掃法でございます。若し御旅行の御場合なら、ライオン煉齒磨のチューブ入を御携帶なさるが御便利でございます。そして其孰になさるとも、完全消毒の「萬歲」齒刷子と申すライオン齒磨本舖發賣の新製楊枝をお使ひになれば、齒磨の効力は一層明瞭確實に顯はれる事を疑ひません。

ライオン講演會巡廻地圖

說明
上圖はライオン講演會の大正二年以來、巡廻講演したる案内地圖なり。府縣の黑點を印したる都市町村は即ち講演會開催の地なり。而して此黑點、今や全國に遍し。ライオン講演會が如何に國人の生命健康を氣遣ひて、齒牙衛生の普及に努めつゝあるかを見らるべし。

京城日報 第三版

五月十四日（夕刊と合せて八頁）

發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社
發行兼編輯人 奥田直毅
印刷人 小川三之介

廣告料 [illegible]
定價 [illegible]

[illegible]なし居れるものは僅か二千人に過ぎ多くは日韓併合當時に移住したものにして自然排日的思想を抱くもの多かりしが時勢の推移と共に漸く可なり[illegible]事とな[illegible]に鮮人居留民會を組織する[illegible]哈爾賓領事館に對し其の認[illegible]したるに領事に於ても之を[illegible]

▲既に七千晌（一晌は我六段）を耕作し大豆及び小麥等の收穫[illegible]査を了せ[illegible]れば近く[illegible]を見るべし又具體的調[illegible]黒龍江及び松花江附[illegible]趨勢にありて農民生活程度の向上と[illegible]滿洲に於る石油の需要は日に增加の[illegible]の支那に[illegible]の外國油なり元來美孚、亞細亞兩油[illegible]る商策は自國に於て[illegible]るの[illegible]油は[illegible]展は甚[illegible]海外に輸出せざる可からず[illegible]に在り從て內地油の滿洲發[illegible]務とすべく日本石油會社[illegible]に際すれば日本油發展は左迄困難ならざる可しと（完）

ウラル山中より
小田柳翠

四月廿二日早朝サマラを後ろに列車はチエリヤビンスクに向つた此のほとりの驛々には革命の赤旗屋上高く掲げられ西行の列車又總て赤旗を掲げ勇ましく出征しつゝある軍人を滿載し赤十字旗を飜す列車には獨日戰線にて勇敢なる奮鬪をつゞけた未名譽の負傷をなし護送せられて手厚き戰時病院の手當を受け早くも回復し再び戰線に立つ戰士が載せられて各部戰線を直行しつゝある多くの列車を目撃した、又た、ルザエフカ、シズラン、サマラ等から投乘する數多出征の軍人があつたが、單に彼等の妻女が驛頭迄見送り來り目を赤くして愛さるべき夫を

△泣別れの悲劇を演ずる外一人の村民一人の友の見送る者が無かつた列車が東北に進むに從つてウラル山脈に眼前に展開し土地が自然に高くなるので、所々には未だ解けやらぬ白雪が殘つてゐる、二十三日夜明けウラル山脈中の一都市ウハーに著いた、驛には一見日本人に似た黒髮の、タータール人種が多い、一帶に南露西亞、小亞細亞方面は氣候風土、我が國に類似していて、山紫水明の所も多く住民も黄、白色混血兒に、黒色を加へた樣な、カウカズ種キリキズ種及び、タータール種が多くを占めてゐる此の內キリキズ、タータールの二種族は

△一夫多妻主義で一人の男が七妻位を有する者が少くないとの事である、又南廻り線の沿道には、數多の獨、墺、土の俘虜が鐵道の改築保線工事や薪の切出し等に使役せられて居る又著しく目を引くのは露國婦人の鐵道工夫の多い事で彼女等は甲斐々々しくも重い道具を肩に俘虜に劣らぬ立働きをして天晴れ軍國婦人の職を全ふしつゝある俘虜の中には墺國の兵が最も多く獨逸や土耳其邊は比較的少ないアシヤバラセウスカヤ驛を出て三露里許りのウラル山間にかゝつた頃俄然列車に大動搖が起つて屋根上の兵士は谷川に振り落され乘客の多くは窓硝子を打破つて我先にと車外に飛び出した、十三輛の客車は尚ほも左右に躍る如き大振動をなし、あわや、顛覆せん計りので機關車に引ヅラレ四五十間も走つて停つた、其時自分達の乘つていた列車は少からず右方に傾斜し出入口は爲めに開閉の自由を失つたが驚き恐怖の餘り力まかせに引き開けて急ぎ車外に逃れ出た

△脱線！脱線！列車の脱線である負傷者も大分有つたが天祐なるかな自分は負傷者の仲間入はしなかつた、若し顛覆でもして居たら遂に再びなづかしい日本の地を踏む能はずウラルの土と化し去つたであらうウラルの春は未だ若いが柳は煙り木の芽は既にふくらんで谷間の草花は黄白紫紅時を得顔に咲き亂れてゐる左には高峰が連亙し、松やエリー樹が茂つてゐる右に谷川の流れがあつて風光至つて明媚である、同行の川崎君は琴古流尺八の名手であつて露都滯在中も大使館や、日露協會及び某露國伯爵夫人などからも屢々所望せられて少からず喝采を博した、此の日御互に生命拾ひした記念としてウラルの山頂で其の一曲を奏せん事を自分け勸めた同君元より好きな道早速贊成して左手の高峰に攀ぢ登り歐亞を境するウラル山巓で

△悠々三曲を奏した、自分も又た聲高らかに一二の詩吟を試みたが蓋しウラル山巓で尺八を奏し詩を吟じた日本人は他に多くはあるまい、四時間を經て七輛連結の貨車が前方から旅客を迎にやつて來た一同は荷物と共に無蓋の此の貨車に積み込まれ約九時間荷物に腰かけたまゝ搖られ〳〵て鐵や寶石の產地たるズラトウーストに著いたのが夜の八時半ゴロツド迄は[illegible]ガタ〳〵馬車にゆられて漸やく一旅舍に荷を下ろした、此所には三箇所の官の製鐵所があつて數千の職工が働いて居る住民は六萬との事だが頗る殺風景なそして不便なウラル山中の一田舍町である（四月廿四日）

朝鮮發著の外電
矢野遞信局通信課長談

朝鮮に發著する外國電報の總數は比較的僅少にして大正五年度に於ては其數一萬一千七百餘通あるに過ぎざる狀況なりと雖も其發著地を詳細に調査するときは吾人の想像以上に僻陬の地方にも通信關係あるを知り得べし今其一例を擧ぐれば

△亞細亞地方にては波斯、小亞細亞土耳古等（又大洋洲地方にては爪哇、呂宋、新西蘭、ボルネオ、緬甸、暹羅交趾支那馬來諸國マラッカ新加坡、クインスランド、新南威爾斯、維多里亞等の各地方に發著あるの外亞弗利加は埃及其他歐洲に於ては希臘の如き國へも發著信ありて何れも其通數甚だ少なし外國電報の中最も通數の多きは支那國への發著にして之れに次ぐは亞細亞露西亞にして其他は米國大不利顛歐露佛蘭西、伊太利、香港、新嘉坡等の順序なりとす目下の朝鮮は海外貿易盛ならざるを以て外國電報の數頗る少しと雖も將來

△海外貿易の發展するに至らば之れに伴ふ外國電報の數次第に增進することとなるべし即ち外國電報の消長は以て海外貿易の消長を卜し得べしと云ふべし外國電報に關する料金其他の規定に就ては改變の度毎に總督府官報紙上に掲載しあり

放浪漫記
三月二十一日新嘉坡に於て
大谷光瑞

（承前）三月三日夜汽船に乘じ惠州に向ふ。惠州は東江の左岸に在り、人口六七萬、一大市なり。蘇長公の嶺南謫居の最初の地なり。城西に湖あり、西湖と云ふ。杭の西湖に及ばざるも、亦一勝區たり。湖畔に蘇長公の侍妾王朝雲の墓を猶存せり。朝雲公の南遷に從うて玆に來り、終に亡す。哀悼の七律一首を見るに、公亦情に厚き人なり。湖は杭の西湖の半に及ばず、長汀曲浦の勝は猶見るべし、只丘阜皆木なく、遠山高からず、故に形勝の美は遠く及ばず。殿閣舊時の物に非ずと雖も、遺址は毫も變せず。斷崖百有餘尺、危く江水に臨めり。門前に大なる木綿樹あり、今圍六尺を過ぐと雖も、公の當時の物に非ざるべし。木綿は小生の見る所によれば、印度に於けるBombax, bariecumと同一なるが如し。然れども印度植物全書（フーカー氏）によるに、印度以外の分布を見ざれば、或は別種なるかも知らず。小生のジャバ、スマトラとし南支那の字なし見し時は、紅葩未だ放たず、故に詳細を知り難し、植物專門學者の指導を蹤で仰がんとす。嶺南一帶は木綿頗る多し、支那人は其用途を知らず、之を指して散材なりと云へり。舊宅の門前より西望最も富む、雉堞女牆雲蛇蜿蜒たると、脚下に岸を嚙む濁流紆曲し、漁艇帆影參差相次ぎ明滅するを見て笑はんとし、又一の形勝なり。公の詩に曰く

吾紹聖元年十月二日至惠州寓居合江樓。是月十八日遷於嘉祐寺。二年三月十九日復遷於合江樓。三年四月二十日復歸於嘉祐寺。時方卜築白鶴峯之上。新居成。庶幾其少安乎。

前年家水東。回首夕陽麗。去年家水西。濕面春雨細。東西兩無擇。緣盡我輒逝。今年復東徙。舊館聊一憩。已買白鶴峰。規作終老計。長江在北戶。雪浪舞吾砌。青山滿牆頭。鬖鬌幾雲髻。雖慚抱朴子。金鼎陋蟬蛻。猶賢柳柳州。廟俎薦丹荔。吾生本無待。俯仰了此世。念念自成劫。塵塵各有際。下觀生物息。相吹等蚊蚋。

（此の外白鶴峰の新居に關する詩頗る多し、今一々は掲げず）

當時惠州の太守詹範は、公の名を慕ひ厚遇せしが如し。公亦嶺南の別境に晏居閑臥し、悠々自適身の流謫にあるを忘る。當時の執政等、公の自ら樂み從容たるを聞き、頗る慊ばず、終に更に遠惡の地に移し、公の死を速かならしめん事を望む。時に僻陬の無きに苦む、偶々公の詩あり『白頭蕭散滿霜風。小閣藤牀寄病容。報道先生春睡美。道人輕打五更鐘。』是を指して上を謾るの語なりとし、更に海南島の擔耳に遷せり。公の惠州に在るや約三年、六十二にして海南島に移り、四年を過ぎ身猶死せず。皇帝遷祚の事あり、終に北歸の恩を得て、建中靖國元年六十六歲北歸し、江西省を經て夏七月、常州（江蘇）に歸り終に卒す。朝廷執政の直接希望は、終に此に至り遂せしが如し。當時嶺南は瘴毒の地とし、人皆怯る。然るに六十有餘にして、七年猶死せざるを得たる、公の身體は頑健なりしが如し。宋の朝廷は支那史上に於ける劣惡の朝廷たり、朋黨の禍是より大なるは無く、外國の侮を蒙る亦是より甚だしきはなし。紛々擾々私黨を樹て、相競ひ、外患に對しては屈辱を忍ぶを和平の計なりとし、割地償金を辭する所に非ず、兵備を減じ、外を捨て內を爭ふ。故に賢良明達の士は、必ず執政の忌む所となり、遷謫竄死を免る能はず。特に公の如き、侃諤の論を好む士は、其命の危きや、風前の灯火の如し。國を誤るに、蓋し一の宋のみならんや。古より今に至るや、不肖の賢能を嫉み、誅殺是事とし、終に亡國に至るは一邱の貉の如し、恐れざるべけんや。

南洋見物
淺岡重喜（投）

（10）植物園を見る

馬車を驅つて市外三哩の地點にあるタンギリンの植物園を觀る、一八七四年の創立にして總面積七十萬餘坪の廣い地面に、天然の森林を利用し、高きは丘、低きは池、其間には道路を[illegible]して居る、門を入れば、左右に竹類を植ゑ、馬車[illegible]自動車の自由に馳け廻はらるゝ樣に[illegible]竹[illegible]竹類が[illegible]の傾斜せる芝生地には、[illegible]杉、アメリカ[illegible]の[illegible]地に[illegible]の[illegible]、椰子の外に、大王椰子、扇椰子、サゴ椰子、油椰子、砂糖椰子などの變り種多く、[illegible]ノキ、[illegible]あり、果物の王さ云ふマンゴスチンは[illegible]の如き形をなしてなつて居る、枝五六尺あつて長大な[illegible]の[illegible]いたミ[illegible]スチカ、[illegible]花な[illegible]に似たる[illegible]スラン等[illegible]冬瓜に[illegible]せた如き形の[illegible]アン等何れも珍らしきもの許りであるが、[illegible]中には[illegible]を極にして下に數十種の蘭が香る、更に[illegible]に行けば、老幼[illegible]の[illegible]の入口に、今から三十七年前の千八百七十九年に始めて倫敦のキウ植物園から移し植ゑた、[illegible]の[illegible]が三本生存して居る、幹も大なるは高さ百五十尺幹の周圍約九尺程ある、方今馬來半島の大面積を[illegible]ふ所の[illegible]林は此木の子孫である、園內には印度[illegible]か居て丁寧に案內して呉れた

（11）博物館の珍奇

オーチャード街にあるラッフルス博物館を見る、館は一八八七年の創立で、赤煉瓦の二階建である、階下の一部を圖書館に充て、階下の他の部分と階上[illegible]陳列場に充て、馬來半島及び馬來群島の人類學に關する標品を陳列し、動物には[illegible]、豹、野牛、猿等を首とし、人に似た猩々、鼻の長くして赤き天狗猿、尾長猿、[illegible]る猿の[illegible]の[illegible]、[illegible]中[illegible]などから、鰐、大蛇、毒蛇、蜥蜴の[illegible]、大蝙蝠や山雞、眼の覺める樣に美しい極樂鳥など實に珍奇なもの計りである、[illegible]ボールの三井護謨園の如きは、時々虎や象の害を受け[illegible]迷惑をなして居る、番犬が虎に喰はれたり、一夜[illegible]百本さ云ふ[illegible]の[illegible]が[illegible]に抜かれたり、[illegible]ボール川に水を浴びる土人の小供が鰐の爲に呑まれる樣な事は珍らしくも何んでもない話しで土人等は日常の茶飯事として不思議がらないが、初めて渡つた[illegible]日本人[illegible]は想像もつかぬ奇聞が澤山あるから[illegible]に書き立て見よう

（12）鹿を丸呑にせる大蛇

[illegible]の[illegible]れるホテルの階下に[illegible]な[illegible]て居るのを聞くと、今日植[illegible]に[illegible]が現はれて大騷ぎがあつたさ云ふ、[illegible]土人が見付けて[illegible]長さ二[illegible]餘のものでと云ふ、其[illegible]で敲き殺したのですと云ふ[illegible]同へば之は三日前の[illegible]より[illegible]で殺したのより[illegible]大蛇で、今日殺したのは[illegible]いものであると云ふ、二三日前の[illegible]に[illegible]いて居る人々は[illegible]事務所へ[illegible]り、休憩[illegible]して居ると[illegible]の土人が[illegible]んで來て唯今[illegible]園の小溝の[illegible]に大きな大蛇が水を呑んで居ります、早く來て下さいと云ふ、試みに其大きさを聞くのに此の[illegible]位もあるかと云へば、ドウして大んな細いものではありません、四斗樽程もありませうと云ふ、さらばさ云ふので、[illegible]用意した獵銃を二挺持ち出して事務所員總出で現場に走つたが、更に姿が見ねぬ、[illegible]いかと疑ひつゝ搜すうち、繁茂せる一叢の中に大きな頭が見ねる、サア占めたと、頭部を目掛けて發砲した、大蛇は死物狂ひに荒れ出すだらうと思つたが、[illegible]少しも動かぬ、[illegible]二度目を打つた、モー大丈夫と多人數で大蛇の尾を持つて引張り出した、其胴の廻りは四尺二寸、長さは二十二尺五寸と云ふ稀有の物であつたから、支那人に命じて解剖させて見ると腹中より今呑まれた計りの鹿が一疋出て來た、即ち之が其[illegible]三枚であると數へられた、一枚は打取つた大蛇を[illegible]の前に引出した所、一枚は[illegible]大に[illegible]せた所、一枚は[illegible]中より鹿の現はれた所であつた、尤も新しい事實であるから記念にしようと考へ、[illegible]池川氏が同情せるを幸ひ同氏に乞ふて三枚を貰ひ受けたのであつた

寸鐵 湖雲話

我宗旨尊し
山縣生

『日曜日にも勞働』と題する愚文につき得敬する一紳士より來狀あり、至極同感なる旨を述べ『然れども基督教徒は聖書の狹義なる解釋と習慣とに拘はれて、日曜日には働くことも遊ぶことも出來ぬと考へて居るが』なる卑言は誤れりと言ひ、右の如く考へ居らざる教徒も多くあるべく、現に此紳士も其一人なりとの抗議があつた。輕々に筆を下して、一般の基督教徒の中には[illegible]した事は惡かつたのである。

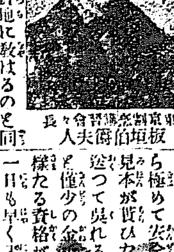
宗教を信ずる人の中にはやゝもすれば狹量なる考を抱いて居る人があ る。他の宗教を邪宗と罵り、之を信ずる者を異端と卑しめて位する事なきはざるのみか、甚しきは同じ宗教に屬しながら、單に宗派を異にするが爲めに互に相排擠する者があるこれ『我宗旨尊し』の考が餘り强きに因るもので、かゝる强烈なる宗教心は或意味に於ては尊重すべきも、亦甚大なる弊害を伴ふものである。日曜日を一部の基督教徒が信ずる如く嚴肅に守らぬ故に、其人を惡人の如く思ふは間違であるは言ふ迄もない事に基督教信徒のうちにも前述の紳士の如く寬量なる考へを抱いて居る人があるに鑑むべしである。

日報歌壇

谷口汀花
[illegible]川邊の[illegible]を淺み止まずしも啼くむれいしたゝき
白木蓮咲きしづもれる[illegible]にして新人[illegible]る[illegible]たりけるかも
はなぶさ
[illegible]日を閉ぢて世の滅びめづらかに[illegible]雨したふ[illegible]行く[illegible]を[illegible]ふ
死絶へて七日が程の[illegible]小屋に[illegible]を[illegible]と[illegible]が出しにけり
誰れ彼れの友の[illegible]も[illegible]の話に落ちて淋しくなりぬ
登志子
足曳の山かげに咲く[illegible]は[illegible]も樂しかりけり

いろはが讀める婦人なれば
六箇月で家庭教師になれる
上流家庭の奥樣にもなれる
家庭教師なら月給は男以上

世が進むにつれて就職難の聲が高まつて來た。最高學府の帝國大學を出ても三四十圓位の月給に甘んせねばならぬのだから、女學校位を出た所で、安々職業の得られる筈が無い。所が『いろは』さへ讀める婦人なら、家事を手傳ふ傍ら勉強すれば、僅六箇月修業で家庭教師にもなれ、又立派な奧樣たる資格も得られる隱得の勉强法がある。其れは伯爵板垣夫人の主宰たる東京割烹講習會の會員となつて、料理法の通信教授を受ける事である。何うい云ふ譯で同會の會員となれば斯く早く出世が出來るかと云ふに現代の婦人で女學校を卒業する人は頗る多いが、家庭に缺く可からざる料理法を研究しやうとする人は甚だ尠い。其れが爲め近頃上中流の家庭では料理家庭教師を招聘するので、何れも頗る頭を惱まして居るので、此際料理法に通じた婦人があれば料理家庭教師として喜んで抱へ、而かも男以上の月給を支給するのである、板垣伯爵夫人は一般婦人に料理智識の普及を圖ると同時に料理家庭教師の養成を目的として設立したのが即ち東京割烹講習會である同會の講義錄は普通の料理雜誌の樣に机の上の議論を書いたのとは、全く其の趣を異にして居る夫れは其筈で同會には附屬の女子割烹學校があつての學校では多數の生徒に日々日本料理、西洋料理、支那料理、和洋菓子の製法から漬物の漬方迄實地教授をなし其實地に出來るものを總ふり假名付の最も平易に何人にも會得出來る樣手を取つて敎へる樣に詳しく書いたものが講義錄となつて出るのであるから此の講義錄を讀めば毎日學校に通つて實地に敎はるのと同樣でまた講義錄には料理の外に婦人として知らねばならぬ禮儀作法、及び女子一般の心得べき事等も載つて居る而して會員は通學生徒と同樣六ヶ月で修業證書が貰へ一箇年で卒業證書が授けられるのである、此の證書があれば料理家庭教師の資格は勿論立派な主婦の資格が備はるのである。其處で婦人が此の立派な資格を得るのに多額の費用が掛るかと云へば同會は公共事業として經營されつゝあるから會費は僅に一箇月が三十五錢半箇年が一圓九十五錢一箇年は三圓六十錢又一箇年の會費を前納する者には特別の待遇が設けてある、而して何人でも東京市本郷區元町一ノ三東京割烹講習會（振替東京一九四一〇番）へ一ト言ハガキで講義錄を送れと申込めば直に其月の號から送り始め同時に會員名簿に登錄して會費は後から月々其地の郵便局から集金に行くのであるから極めて安全である又講義錄の內容見本が貰ひたければ申込次第無料で送つて呉れる、這う云ふ簡易な方法と僅少の金で家庭教師たり立派の奥樣たる資格が得らるゝのであるから一日も早く入會して婦人成功の捷徑たる此の進歩せる完全にして有益なる敎授を受けるのが婦人たる者の先決問題であらうと思ふ。幸に同會は今回新學期で種々なる特典を與へ全國に會員の募集中であるから滿員にならぬ內早く申込むが得策である、最後に注意して置くのは申込の際必ず京城日報新聞の紹介であると明記すれば又特別の便宜を與へて異れる筈であるから之れを書き落さぬ樣注意が肝腎である。


東京割烹講習會々長 板垣伯爵夫人

早稻田大學講義錄
總長 大隈侯 名譽學長 高田博士 學長 天野博士 指導

中學講義
▼小學卒業後 自宅で 中學校同樣の實力を得る 立身最善の道

大隈總長より 獎學メダル贈與 其他特典多大 一學年開始 直に入學せよ!!

商業講義
▼實際の役に立つ活きた講義

申込次第 各科見本附規則書 直に送呈

東京牛込早稻田 早稻田大學出版部 電話番町三七四二・二四三

千葉晩香先生著
朝顏及夜會草の栽培
朝顏の妖艶夜會草（夕顏）の淸楚いづれも目下大流行で上下一般非常の愛玩本書は其作り方を極めてやさしく親切に說いたもの通俗總振假名栽培家の絶好手引

大判洋裝美本 正價金四十錢 郵送料金四錢 郵券代用も可

東京京橋 有隣堂 振替東京一六九六番

支那の形勢

▲黎總統徐世昌接見

黎大總統は十三日特に徐世昌氏と接見す可し是れ内閣改造の爲めなりと(北京特電)

▲武力干渉を試みん

各省督軍中には段總理を飽く迄擁護し國會を武力に依り處分すべしとの說をなす者あり形勢の變測るべからず(北京電報)

▲協商各國公使態度

十日協商國側公使會議を開き其結果支那の宣戰に對しては當分傍觀の態度を取る事となれり(北京電報)

▲軍隊入京と出動說

第一師一部の兵二千名十二日密送され十三日全部北京に入れり又十五旅の兵も一部出動しつゝありと傳へられ一般の注目を惹き居れり(北京特電)

▲段總理辭職裁可か

段總理の辭表提出は今明日の中に迫れるが黎總統も大決心にて其の辭職を裁可すべき模樣なり尙ほ段總理は辭職するも後繼內閣決定する迄北京に留まるべしと觀測さる(北京電報)

▲段氏家族北京を去る

段總理は其の家族を十一日北京より天津に送れり之れに依つて見るも辭職の決心堅きものと解せらる(北京特電)

▲伍外交總長辭職か

伍外交總長は十一日夜天津に下れり同地より辭表を提出せん(北京電報)

▲梁啓超天津に閑臥す

參戰側の主要人物たる梁啓超氏は段總理との面會を避けて全く傍觀し今や天津に閑臥し段氏の懊惱を餘所に見全然該事件と關せざるものゝ如し(北京特電)

▲通信員負傷と陳謝

共同通信の中野氏が十日衆議院前にて負傷せる事件に對し段總理は十二日齋藤少將を通じ林公使に陳謝の意を表し來れり(北京特電)

○墨國ジ將軍暗殺さる

墨西哥のジュアス將軍暗殺されたり(桑港特電)

○先週汽船擊沈數

先週中英國各諸港に入港せる汽船は二千三百七十四隻出港汽船は二千百九十九隻にして中獨逸の爲め擊沈されたるものは一千六百噸以上廿四隻同以下二十二隻を算し外に襲擊を受けたるも辛ふじて免れ得たるもの三十四隻あり(倫敦電報)

○金久保少將 檢閱

金久保步兵第四十旅團長は甲副官を隨へ十三日午後二時金化より春川に來著十四日守備隊を檢閱したる上十五日自動車を驅り京城へ向ふ(春川特電)

◎政務總監著春

山縣政務總監、鈴木臨時土地調査局長其他隨員は滿鐵の改野理事、四平街迄出迎へたる橋本署長等と共に十二日午後九時長春著、多數官民の出迎を受て大和ホテルに入り翌十三日午前七時三十分吉林に向ひ午後六時十分再び長春に歸著約一時間同地附屬地を巡視したる後大和ホテルに入れり、官民有志は總監一行の歡迎會を開くべく協議したるも總監は之を辭退したるより止むを得ず之を中止したりしが總監一行は十三日午後十時三十分滿鐵列車にて奉天に向ひ歸鮮の途に就きたり停車場には玉木領事官補三島地方主任其他官民の見送りありたり(長春特電)

◎大阪市場と鮮米

現下朝鮮各港在荷は仁川の二十八萬叺群山四萬七千叺釜山四萬叺鎭南浦五六萬叺にして概算四十一萬叺を計上され內鎭南浦の五六萬叺は輸出宛貸附け品にして全然本邦に移入とは成らず大體朝鮮人口千六百萬人に對し昨年の實收千三百萬石なれば之が需給は稍平衡せると共に移出量の多からざる上に常用食の雜穀商に對し自然半食となり剩さへ露國輸出增加と共に現時の在荷は朝鮮自地の需用に充當する外なく從つて今後の移出は殆んど絕望の觀ありと云へり而して大阪市中鮮米在荷は約十四萬叺にして各精米所宛て本月中一抔の供給量を支ふる迄にて今後の移入杜絕となれば勢ひ內地古米を使用するの外なきと共に各鮮米問屋筋は先途の必然商を見込し陸石小西木谷及び庄野等市中有力問屋は此際可及的割安品を物色するの已むなきと共に直接產地漁りを試むべく其々渡鮮の途に著くべしと云へり尙ほ彼此の米價對照は產地呼値群山金羅下格良品の十四圓九十錢次品十四圓七十錢の沖著にして當市價は十四圓六十錢稱への三四十錢方不引合となり仁川港は神力十五圓二十錢の沖著を報じ當市價十四圓八十錢稱へなれば方に五六十錢方の不引合狀況なり(大阪支局)

◎京畿貯蓄金品狀況

客年十二月末現在調査に依る京畿道管內現在貯蓄金品狀況を聞くに二府二十二郡に亙り貯蓄團體數三百七十六あり、而して團體員數當期加入一萬四千七百八十六人當期脫退八千零十九人現在十四萬九千三百二十八人を有せるが其現金貯蓄は當期預入九萬二千六百零八圓四厘當期拂戾三萬七千五百三十九圓八十八錢五厘同末現在二十四萬一千三百二十四圓六十一錢三厘なり又物品牛九百九十七頭換算價二千三百零九圓三十一錢籾換算代價八千四百七十八圓八十三錢八厘大豆換算代價五百七十五圓五十三錢二厘米換算代價七千二百零三圓七十七錢麥換算代價五千五百四十九圓三十三錢七厘なりと

◎棉作十年記念會の第二日

小學校の講演會=前日に劣らぬ賑

▲博士技師講話 棉作十周年記念會の計畫にて十三日午前九時から木浦小學校講堂に於て講演會の開催あり中村總督府技師は「棉作擴張に就て」水原勸業模範場長本田博士「北米視察談」を試みたり聽衆二百餘名に達し頗る盛會なりき

▲模範場視察 午後小原農商工部長官、本田博士、中村技師の一行は龍塘なる模範支場を視察したるが夜は木浦官民有志の催しに係る招宴に臨むべし

▲市中の賑ひ 記念會に列席する爲め木浦に集りたる地方日鮮人數百名に上り市中は十三日も尙ほ國旗球燈を揭げ生花陳列其他飾り物、博多仁輪加等の催しあり近來稀有の盛況を呈せり

▲長官以下歸期 小原農商工部長官、中村技師の一行は十四日朝出發京城に歸任すべく本田博士は一兩日歸任遲延の豫定なり(木浦特電)

◎家屋稅納付方注意

京城府大正六年度第一期家屋稅納稅告知書は五月一日付郵便にて全部送達濟なるも納稅の成績良好ならず中には金策不如意の者も有るべけれど金利より打算し督促手數料を支拂ふも納稅を延引する方尙且利益なるもあるより故意に怠納するが如き不心得者多數あるものゝ如し故に府當局は此等惡習慣を矯正する爲め稅務課にては手數を吝まず銳意督勵を爲したるも其の效果の見るべきもの無きを以て本年度よりは督勵は必要なる一部に止め納期を經過したる者には直に督促狀を發し膺懲的に滯納處分を斷行する計畫なりと聞けば未納者は此際至急納付するを得策とす尙納稅告知書の送達不能として郵便局より還付し來りたるもの三百餘通あり其の所在心付きの分は再送したるも其の他は規程に基き公示の手續を爲したる由にして告知書を受けざるものと雖も國稅徵收法により異議を申出づること能はざれば至急京城府第二課稅務第一係に付き再交付を受け納稅する方可なるべし

◎大阪より

▲我國現下の經濟界及び事業界は日一日と順調にして健全なる發展を見つゝあり此の際徒らに國內の政爭により平地に波瀾を惹起し財政經濟の根底を動搖せしむるが如きは何處までも避けざるべからずと懸念に堪へざりしが幸ひに今次の衆議院議員の改選も政府黨の勝利に依りて現狀を持續することを得たるは蓋し何よりの幸福と云ふべく事業界に取りては之に過ぎたる仕合は莫かるべし然れども山本政界の事實業界と自ら其の趣を異にし假令一敗地に塗れて大敗したる政黨と雖も或る時期に到達せんか何日かは再び得意の舞臺展開し來るもの其處は即ち憲法政治と云ふ人生活の妙味の存する所なれば强ち悲觀するを要せず

▲既に我が政界の現狀にして此儘持續する以上諸有事業界は當然好調なるべく之を內外の形勢より觀察するに物價の騰貴點は蓋し本年夏頃迄を以て絕頂點と斷言して差支なかるべしと信ず既に歐米に於ても銅相場に低落を呈しつゝあるが如きは此の間の消息を機微の間に豫斷せんとするものに非ざるなきか然かれども食料品、鐵、亞鉛、の如きは尙ほ今後昂騰を見ざれば止まざるべく尙ほ聯合國に於ける此等の需要は船舶の世界的需給關係により一層の騰貴を免れざるべし茲に面白き現象は昨今鐵材の激騰により貨輪にて船舶を建造すると殆んど同一の價格に達せんとする現狀なるが我國に於ける海外輸入鐵材の先約は相應に成立せるものあれば茲暫く何等悲觀を須ひずして可なり

▲以上の如く本年の夏期を以て物價の世界的最高時期とせば本年下半期以後に於ける經濟界の大勢は如何是れ少くとも多大の興味を以て注目すべき好況時期と云ふべく株式界の活路もまた之と殆ど同時に出現すべし即ち各事業會社の業績良好なると資金の豐富なるとにより我國內地の景氣は蓋し豫想外なるべく昨秋の成金相場に比して來るべき本年下半期の好況は一段高潮なるべく眞個大成金の出現すべき興味深甚なる機會の到來は必らずしも架空の付景氣にあらずして當然の結果なるべしと觀測せらる(大阪支局)

人事消息

▲中村楠七郎氏(遞信業)▲中村辰五郎氏(同上)十四日朝入京天眞樓に投宿の筈
▲ハヤツホ氏(安東縣稅關長)十三日夜入京京城ホテルへ
▲乾政彥氏(法學博士)同上朝鮮ホテルへ
▲藤森勇氏(北滿洲製粉會社支配人)同上
▲米國觀光團十二名同上

□□□ 南巨北語

獨逸軍は今年になつて前進よりは退却の方が多く英佛軍がドシ〳〵猛進したのは痛快だつた▲三月末迄の獨軍撤退の面積を計算すると八百五十三平方哩で西北佛蘭西の四州に亘つて居る▲其の中には都市二百六十六佛蘭西人の家族十八萬二千は再び祖國軍の來援を迎へた譯だ▲處がまだ獨逸軍の占領して居る佛蘭西領は七千百廿六平方哩あるからもう一と奮發だ▲獨軍は近來最初の勢なく苦もなく英佛軍に擊退されつゝあるが▲實際獨軍の內情は非常に困難に陷つて最早猛烈な戰をする元氣はないらしい▲獨兵の死骸の懷から出た手紙を見ると彼等は悉く困憊を愬へ▲其例證を述べて甚しきに至ると任命に對し怨嗟を放つなどは有り勝ちで▲最も酷いものになると國家を呪咀するものもある▲此等は皆鄕里へ送らうとして未だ投函しない前に戰死したのであるから▲實際の心情を吐露したものであつて決して僞りではない▲之に反し英佛軍兵士の鄕里に送つた手紙を見ると孰れも愛國の至情に充ちたものばかりである▲佛國兵士の手紙には『予は今死す佛蘭西萬歲』とか『父は今祖國の爲に名譽の戰死をなすも魂魄は永く留つて獨逸軍國主義を倒さずんば止まず』など書して斃死に逆つたものもある▲『我無き後我無しと思ふ勿れ我は國として存在す』と妻君に宛たものなど▲眞に一見懦夫をして起たしむの慨あるものが多い▲之れで見ても獨逸が如何に詭辯を弄して戰勝者たらんとするもお氣の毒ながら實際はさう許さぬ

支那遍歷

曲阜行=孔子廟と至聖林(三)

中島生

至聖林

孔廟を辭して、例の支那馬車を驅り至聖林即ち孔子の墓所に赴き申候。曲阜の郊外、聖廟より北方、近距離に在り。至聖林に通ずる道路の兩側は亭々たる老古栢威儀を正して立ち並び、靈氣自から人に迫る。古色を帶びたる石門を入れば、更に木造の樓門ありて『至聖林』の扁額を揭ぐ。兩側の壕牆の連なられる道を行けば、復た二層樓の門ありて、同じく至聖林の標額あり。至聖林とは、孔子墓畔に柏樹蒼々として林を成せるより名づけられたる由也。此の門より壕牆の高さ約十尺、厚さ五尺位なるもの、內廓を繞らせり。更に石門あり此處にて參詣者は車馬を下るを要す依然たる並木道を步すれば、小流に會す。之れ、有名なる洙水也。小石橋を架し、洙水橋と謂ふ。橋を渡れば直ちに孔子の墓に到る。石人兩側、及び獸形四個相對せる舖道を行けば復た一門あり。此の門を入れば身は既に孔子墓前に在る也。門に右方に享殿あり。扁額の享殿の二字は淸乾隆帝の御筆なりと云ふ。享殿の後方に子貢手植の楷樹と云ふものあり。素より二千年の木にはあらず。形式的に存せるに過ぎず。楷樹の傍に楷亭ありて、亭中に子貢手植の楷樹を刻せる楷圖なるものあり。

大成至聖文宣王墓

孔子の墳墓は享殿より奧にあり。簡單なる土墳にて、小樹雜生し、枯草の間に綠草萌ゆ。墓前に一大石碑建ち、碑面には、太く且つ鮮明に「大成至聖文宣王墓」と刻しあり。大成至聖文宣王の文字、之を誦すれば、如何にも崇嚴なるを覺ゆ。東海の遊子端なくも此の禹域に來りて、孔子の墳墓に詣づ、古を想ひ今を思ひ、感慨に堪へざる也。

孔子の墓の西に孔子の息伯魚即ち泗水侯の墓あり。南には孔子の孫にして、中庸の著者たる子思の墓ありて沂國述聖公墓と銘せり。同じく西側に小やかなる祠宇あり、子貢廬墓所とて、弟子子貢が孔子の死を哀みて墓前に廬を結び、他の弟子は三年間服喪に服せるに、彼れは六年間服喪せる、其の跡なりと云ふ。

孔廟にも、墓前にも、樹木甚だ多く、然かも樹と云ふ樹は、悉く栢にして千年の古木尠からず。其の剛健なる樹姿は斯かる境域に最も相應しく、頗る崇嚴の趣を加へずんばあらず候

曲阜の町は孔廟と至聖林との爲めに存在せりと申して宜しく、町の面積の三分一を占むる由に候。孔廟は文廟、或は至聖廟とも呼び、昔魯の哀公十七年に建てられたる舊廟は、極めて小規模にて、三屋を有するに過ぎざりしが、今日の生等の詣でたる宏壯なる廟宇は、唐の玄宗帝の時、孔子に文宣王の追謚を贈りたると同時に新たに造營せるものなりと謂ふ。爾來、宋、金、元、明、の歷朝之を修築し、淸代に至りて二回の修築をなし世宗の雍正二年全部を修理して、孔子先祖五代をも封じて王とせり。孔子の子孫は、孔子廟の宋の時、衍聖公の尊稱を賜はり、其の邸宅は孔廟の隣に在りて衍聖公府と稱し、堂々たる構へなり。今日は七十三世の子孫にて、孔令貽と申す人に候。曲阜には孔廟の外に、顏子廟ありて、復聖廟とも稱し、顏回を祀る。規模は孔廟の如きものにあらず。參拜の暇なく、門前より敬意を表し申候。

先づは一通り曲阜參詣を畢へたれば聖地に名殘を惜みて歸路に就き、再び泗水を渡りて、正午頃に津浦線曲阜驛に戾り候。巡警、先生の勞を犒ひ、少憩の後午後一時三十八分の列車にて發し、六時十二分濟南府に歸著致候。

◉仁川各學校

上に於て運動會谷は茲に熱狂の巷と化せり高一の障碍物競爭、商業… ノトランス公滿場感興に打たれ 尋常四年以上高等一年生のニューコ… 其結果は一著井上(高一)二著赤羽三著毛谷等なりき、高女生徒の波上の… 非常の賞讚を博し…

◉龍山射擊會

龍山在鄕軍人分會の春季射擊會は豫報の如く十… 長を始め折柄入京中の山梨教育本部長等臨場す會員來賓共何れも銃を執り… 午後五時散會したり當日は長谷川總督、秋山軍司令官、古海總長、隈部…

◉…州より京都へ チャンピオン氏飛行

●スミス氏 名古屋にて飛行

實說忠臣藏

忠臣義士 讐の仇討

全十二卷 表裏百廿段返し

(特別大興行)

寫眞長尺に付 正六時半 第一卷映寫

▲日東帝國の精華

▲武士道の典型

二萬圓の撮影費を投じたる未曾有の大史劇

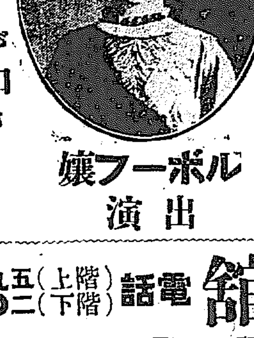
專屬義太夫 竹本糸光 出語

初日以來滿員

後タツタ 四日間

毎日午後六時より開館

喜劇ダンス『鏡の蔭』



ルボーフ孃 出演

▲人氣湧くが如き 大餘興!! 藝題差替

東京小林商會滿鮮代理店 米國ユニヴーサル社特約

有樂館 電話 (上階)五九七番 (下階)二〇五番

…川各學校聯合運動會午後の競技は三四の間接は瑞亞氣を…
…時より再び開始され觀覽者は彌が上にも…體育上極めて理想的なりき
…小學兒童の十週徒競走を行ひたるが
五時半なりき
初夏の日各國公園の新緑を…
花輪園長、古市警務總長、隈部支部…
分會長答辭を述べ終つて宴會に移り
吉田憲兵中尉の諸氏なり
…せり（自然…）
…妙技を示し…

本社主催大野遊會

人出十萬一山を埋む

盛觀！盛觀！　漢江上空前の盛觀

電車、自動車、腕車で引切りなしに運ばれて來た幾萬の人達は龍山渡場の波打際に人山を築いた百廿艘の大小の船は溢ぼれるやうに人を積んで一生懸命に渡して居るが後から後から押し寄せて來るからいくら船が來ても乘り切れない、風を孕んだ帆は江上に充ち滿ちた漢江の對岸から奉恩寺迄十數町の間は山も野も人で埋められて居る殊に朝鮮の婦人や子供が多いので白い著物に水色桃色紫の裳ひらひらと青野の中へ花のやうに連絡して青葉山を進んで行く奉恩寺の入口あたりからは既に見渡す限りの人山で朝鮮人の物賣る呼聲や其處彼處から響いて來る妓生の歌や大鼓の音が賑々として山野に充ち渡つた總人員は慥かに十萬を超ゆ內地人の遊覽者も亦萬を以て數ふべく此處の青葉蔭、彼處の若草の上に席を設けて互に酒を酌み交はし謠ひさゞめき春を送るに此上なく樂しき野遊會なりとて悦び合ふて居る奉恩寺は今や庭前の林檎花の盛りなる上に大法會を修行する事とて十數日前から力を盡して裝飾を凝した る事とて

◆美しい造花や花燈籠や經文を書いた彩旗などで極樂殿のやうに飾られた●大雄殿の前には大聖釋迦牟尼佛の大畫像を安置し樣々の供物が並べられ數多の善男善女が合掌拜跪して居る大雄殿の中に這入れば朝鮮の寺院には珍らしく立派な合天井の華紋や周圍の壁畫に

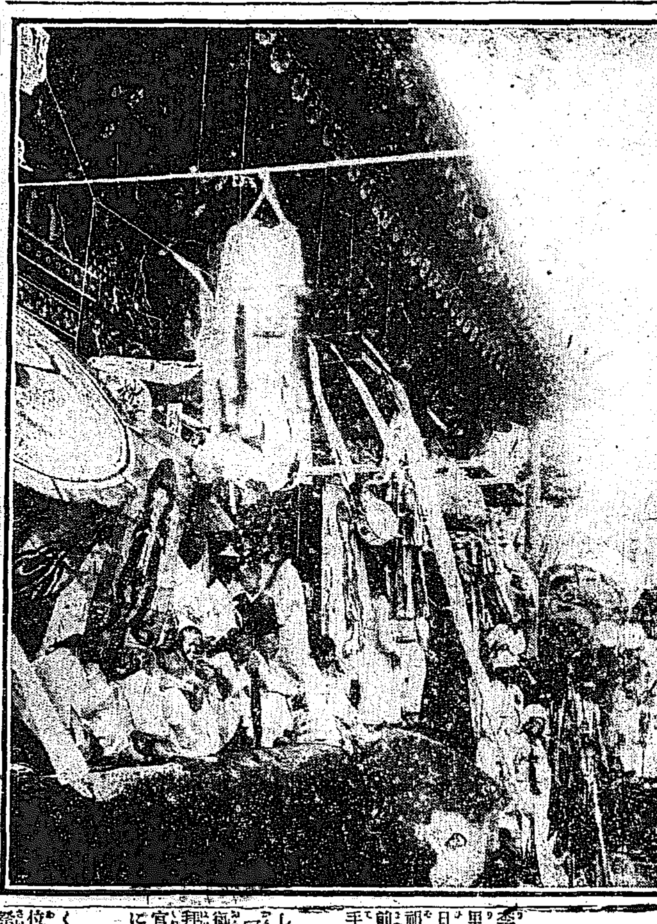
◆群衆は齊しく賛嘆の聲を合せ又萬歲閣前にては大木魚、大太鼓等それから廊下に陳列した同寺の寶物玉梅花板、紺紙金泥の法華經、渡來佛像其他の繪畫等を板殿では積み上げられた經板等何れも珍らしいものばかりであるから遊覽者は非常に悦んで居つた、其の內に餘興寶探しが始まる鈴が響いた

◆寶探は寺の背後の松山で開かれた『それ京城日報の寶探しだ』と云ふので群衆は忽ち山に驅け登つた何にしても千餘點の景品券が隱してあるのだから見當る見當る非常のものだ景品引換所の處は停車場の出札口のやうに一列に長く並んで順々に引換を受けて居る『僕のは銀時計だ』『妾しのも銀時計よ』『乃公は上等反物だ』と云ふ風で

◆なかくの賑やかだ本社の接待係では盛んに茶菓の接待をして居つたが何にしろ五萬六萬と云ふ群衆だから忽ち品切れお剩けに水は十町も先きまで行かなければ汲めないと云ふので後から來た人達には遺憾ながらお接待が行屆かなかつたらしい、此處で發賣して居た記念繪葉書も瞬く間の賣れ行きであつた、それから

◆奉恩寺大法要が始まつた鐘が鳴る大鼓が響く唄のやうな讀經が始まる朝鮮では古來から寺は遊び場所で寺の大法要と云へば一種の餘興位のものだ最もこれが却つて極樂信仰の對象として居る佛數の旨に合なつて居るのかも知れない法要と一緒に綱渡りも始まるし妓生の踴鞮も始まる若葉山の裾を廻はつて寶陵に行く人も少くなかつた、午後三時頃に成つても

◆益々人は出で來るばかりであつて一時は奉恩寺の一山は全く黑白の人を以て埋められた、日は曇りもせず惡く照り付けもせず。歸りの道を蠶島の模範場に廻つた人も甚だ多かつた、斯くて京城日報社每日申報社主催の一大野遊會は天と人とに祝福せられて豫想以上に盛大に豫想以上に滿足なる終結を告げた



◆奉恩寺大法要の裝飾 ―本社主催大野遊會の日―

▲寶探當選者

一等　若草町一四二

六等　南山町　堀川甚六
七等　社稷洞二〇七　大畑たけ
九等　南山町　成樂達
十等　竹添町　大越はな
十一等　蠶島　張春鳳
十二等　同　關康澤
十四等　社稷洞　文希奉
十五等　蠶島　閔家澤
十六等　西氷庫　龜澤いと
十八等　花園町　李光福
二十等　義州　志賀直太郎
廿一等　竹添町三　鄭喜善
廿二等　蠶島　南春鳳
廿三等以下（未定）　粉喜村

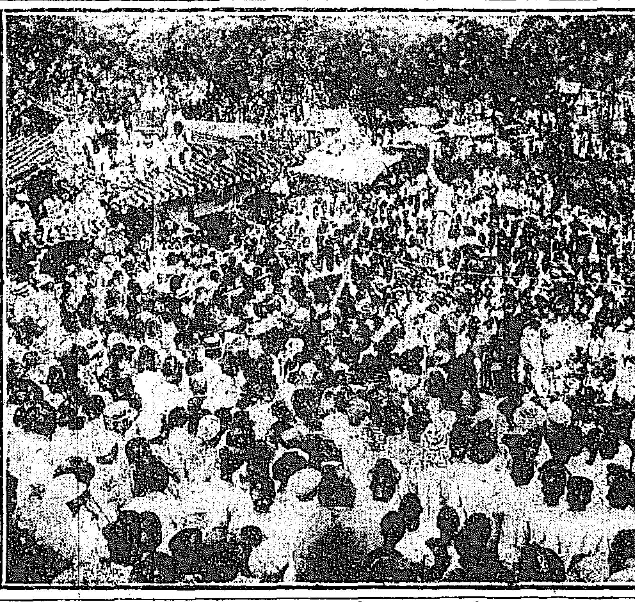
賞品引換のまだ相濟まざるものは十五日中に本社に出頭せられ度し

野遊會雜觀
―昨年より本年に掛けて初めての人出―

昨十三日の本社及び每日申報社主催の家族的大野遊會は實際未曾有の盛事であつた▲兎に角本社の選定せし場所が有名な奉恩寺附近であつたのと珍らしい愉快な極平民的な自由の野遊會であつたから來會者の出遊數は實に昨年より本年へかけて未だ見ざるの大盛況を呈した▲光熙門から往十里電車終點迄は十五臺の電車を終日三分間每に運轉して尚ほ運搬力の缺乏を告げた▲往十里から蠶島迄は二百臺の人力車が一臺六回平均の往復をして尚ほ出遊者を乘せ切れなかつた▲蠶島渡船は最初三十餘隻の大小船の要意をしてあつたが十一時より十二時と人出の盛になつた時は大分足を告げたので龍山方面（松坡鎭方面、豆毛浦、新村、西氷庫など漢江沿岸各船付場の船を皆集收して百人乘十餘隻其他合計百二十餘隻の船を渡船に用ひたが尚ほ不足を感じて婦人方の中には渡船を一時間餘も待つて居た氣の毒な人もあつた▲奉恩寺へは遠くは黃海道沙里院、黃州、又は開城、壽川方面、果川、水原、廣州、驪州、鳥湖院、利川方面を初め方面は無論殆んど京畿、黃海、忠北の人々を集めたので流石に廣き奉恩寺附近も全たく人を以て埋められ總數十二萬餘人と註せられた▲而して何れも悠々として一日の清遊を恣にして居る處は殆んど何と形容して好いか知れぬ程であつた▲蠶島憲兵隊などでは何れも鞏食を取る隙なく各所からの應援を得て

◆野遊會の繩張り

終日警戒斡旋して居たのは深く其の勞を謝する處である▲實際當日は豫想以上の盛會であつたにも不拘一人の負傷者をも出さなかつたのは官憲の取締の周到であつた事と來會諸君が互に相戒められた結果である▲而も此の多數來會諸君が滿足に豫定の如く其の一日を清遊したに就てはお互に祝福せざるを得ない



◎庭燎の焰神々しく
―純朝鮮の古例に依り古典的氣分に富む―
李王殿下十三日本宮御參拜

李王殿下には十三日午後咸興より一里餘程の本宮に御參拜あり、此の日松翠濃かなる本宮の正殿には太祖を始め宗祖四體の神位を祭りたる前に種々の供物を供へられ庭前太祖手植の松の邊りには

◘庭燎の焰明々として聳し、此時殿下には黑の祭服に金色の冠を戴きゆるやかなる赤帶に緋の御沓を召されつゝ靜々と祭壇前に御拜あり猶ほ李堈公殿下を始め閔長官以下の人々も皆、青、赤、白の服にて

◘祭壇前に整列せり、斯くて長閑なる典侍の聲に殿下は各神位の前に跪伏拜の禮を行はれたるが祭祀は純朝鮮の古例に依り頗る古典的氣分に充ちたるものなり、殿下は更に四時より咸興の東定和陵に赴かれたるが途中柳の橋畔よりは自動車より更に

◘黃色の轎子に召され、雅びやかなる長列にて山陵へ向はるゝ眺めも繪の如くなりき、斯くて殿下には白の祭服に紫の冠を召されつゝ山陵の祀を行はせられたるが山上の御陵にては親しく石神

◘石馬など御覽あり午後八時御歸邸ありたり、尚咸興附近の御陵には夫々御名代を差遣、祭祀を行はれ之にて遊次御展閣の儀は滯りなく終了せり、十四日は午前十時半咸興發、午後六時釋王寺驛著の豫定なり（咸興にて特派員發）

◎第十一多聞丸坐礁沈沒す
宮崎縣油津港にて

兵庫縣西宮八馬永藏氏所有汽船第十一多聞丸（三、二五〇噸）は大阪商船會社の傭船として航行中十二日午後四時宮崎縣油津港内にて暴風に遭ひ暗礁に乘り上げて沈沒し乘組員二十名行方不明となれり船體は神戸海上保險へ三十萬圓の保險を附しあり積荷は全部にて七十餘萬圓也（大阪特電）

夏場所
（十三日午後十時著電）

▲三日目の勝負

勝	負	勝	負
時津風	朝日山	友の山	男島
綠 預	大貫	御西山	外ヶ濱
東雲	花の山	紀の川	國見崎
浪泉	荒玉	稲柳	浦の花
大門岩	太刀風	大潮	鳴門洋
達の矢	若島	鶴渡	龍ヶ崎
小常陸	八甲山	柏戸	駒泉
千葉ヶ崎		宇都宮	

宮城山 敷島　大鳴門 預 岩木山
眞砂石 預 綾川
錦島 兩國
源氏山 伊勢の濱
大錦 大戸平　西の海 土州山
△中入後
琴ケ浦 分 彌高山　明 大の高
浦の濱 清瀨川
黑瀨川 釋迦嶽　栃木山 玉手山
一港 藤の川　石山 逆鉾
常の花 紅葉川
朝潮 九州山
鳳 對馬洋

右勝負の手捌きは▲時津風に朝日山は朝左を差し喰ひ下らんとするを押し倒して時の勝▲友の山に男島は左四つ友首投を打ちて左脇下に突き込み十分に喰ひ下がり男押起して寄り進む際前襌解けて醜態を現はしたるに行司玉治郎は是れを左右に引分けしが検査員花籠、關の戸は斷道の預束により男の負と定め友の山に勝名乘を揚げたり▲萩綿に大貫は左四ツにて朝寄り進むを貫打棄り同體に流れて預かりとなる▲外ヶ濱に御西山は左四ツ御西の寄り進むを受け土俵際に打棄りしも已に踏切りし事とて御西の勝となる▲東雲に花の山は左四ツ蹴引に吊り出して東雲の勝▲紀の川に國見崎は左四ツ國見の爆つて寄るを打棄つて紀の川の勝▲荒玉に浪泉は二本差寄切つて浪の勝▲稲柳に浦の花は幕下新進の元氣同志なりバツタリ右四ツに渡るや互ひに左上手を引く内稲強引に寄りを試みしが浦磯して呼吸を圖る内稲右足を内掛けに絡んで寄り倒しての勝は元氣なり▲太刀嵐に大門岩は左四ツ大門寄進んで太刀の堪へるところを突き落す▲鳴門洋に大潮は鳴門の押すを潮殘して右四ツとなり鳴門外掛けに靠れ込まんとするを強引に拔き上げて突張り出し大潮の勝▲若島に達の矢は突き合ひ押切つて達の勝▲鶴渡に龍ヶ崎は突き合ひ突き出して鶴の勝▲八甲山に小常陸は小常陸の押すを受け流して右四つに渡りしが小常崩りたて寄り進み八甲腰して逃ぐるを附け入りて寄倒す▲柏戸に駒泉はパツタリ右四つ駒の吊るを腰を預けて靠れ込み柏戸の勝

△千葉ヶ崎に宇都宮は恰度似合の好取組宇都の突いて寄るを千葉受けて右を差せば宇都も同じく右を差したるが千葉外掛けに靠れ込まんと體を預けて寄進み宇都が打棄らんとするを浴びせ倒して千葉の勝▲大喝采▲敷島に宮城山は敷が左を差さんとするを寄切つて宮城の勝▲大鳴門に岩木山は岩木敵のトツタリを避けて右四ツに渡り鳴門の寄り進むを岩木土俵際に敵の頭を取つてトツタリを打たんとするを鳴門體を突きつけて同體に流れ軍扇は鳴門に揚りしも物言ひつきて預り▲眞砂石に綾川は眞砂飛び込んで綾の左足を取りそのまゝ靠れ込まんとするを綾殘せば眞砂サラバとばかりそのまゝ右を差して喰ひ下り寄進む土俵際に捨つて同體に流れ物言ひつきて預かり

△錦山に兩國は一合して左四ツ兩右上手を引くや外掛けに靠れ込まんとするを打棄つて錦の勝は喝采

△伊勢の濱に源氏山は源氏素早く得意の二本差となり一氣に寄切つて勝▲大戸平に大錦は當日屈指の好取組なり双方息合はずして仕切直し待つた十數回を重ね漸くにして立ち上るやガツキリ左四つに左ろや錦の出ハナを大戸強引に小手投げを打ちし時はアハヤ極まらんとせしも錦辛じて殘し鳥渡離れしが再び左四ツに互り錦の寄るを大戸得意の卷き落しに行きしときは錦又も危かりしが殘せば大戸サラばと勢ひ込んで寄るを切返して錦の勝は目覺しき大相撲にて滿場宛ら醉へるが如かり

△中入後▲土州山に西の海は土州双筈にて押進みし時は西危ふかりしが土俵を廻つて殘しつゝ土州の左手を引張り込み小手投を打つて勝▲琴ケ浦に彌高山は左四ツ彌高十分に喰ひ下り寄り合ひ水入後一寸動いて引分▲明に大の高は左四ツ明捻りしも殘つて互ひに呼吸を圖り大の下手投げを打たんとするを外掛けに靠れ込んで明の勝▲浦の濱に清瀨川は左四ツ突き清瀨足癖に互らんとするを一吊の後強引の片手に吊り出して浦の勝

△紅葉川に常の花は本社の懸賞豫想角力なり左四ツ十八番の櫓投げにて常の勝は元氣なり▲藤の川に一港は右四ツにて寄り合ひ藤寄進むを打棄つて一の勝▲石山に逆鉾は石鋭く突きかけ逆がタヂログ所を透かさず附け入つて押切る▲黑瀨川に釋迦ケ嶽は左四ツ釋迦外掛けに靠れ込まんとするを廻り込んで吊出し黑瀨の勝▲玉手山に栃木山は玉手敵の突き出すを引張り込み右足を掛けんとする隙もあらせず一押に押切り栃木の勝

△朝潮に九州山は本日第一の好取組なり九州双筈に當てゝ押して出るを朝一足下つて受止め諸手にて敵の右を抱え捻り氣味に打棄つて朝の勝

△鳳に對馬洋は左四つ對馬右上手を引くところを煽り立つて寄切り鳳の勝にて御出したり

▲四日目の取組

彌高山（大の高・鶴渡（逆の矢・琴ケ浦（宇都宮・石山
明
駒泉（釋迦嶽・藤の川・柏戸（對馬洋・玉手山（大潮・大鳴門
宮城山・浦の濱（逆鉾・紅葉川（一港・伊勢濱（栃木山・敷島
九州山・鳳
△中入後
龍ヶ崎・若島（常の花・錦島（小常陸・鳴門洋（源氏山・八甲山
清瀨川・大戸平（岩木山・土州山（黑瀨川・綾川（朝潮・兩國
西の海・眞砂石（大錦・千葉ヶ崎

國技館大相撲　夏場所成績表
（表中○勝●負△預×分）

東の方：太刀山、鳳、伊勢濱、朝潮、黑瀨川、眞砂石、土州山、大鳴門、千葉ヶ崎、敷島、大戸平、紅葉川、玉手山、錦島、浦の濱、石山、鶴渡、八甲山、鳴門洋、明石、藤の川、柏戸、若島　勝星 三十一

西の方：大錦、西の海、栃木山、兩國、九州山、逆鉾、宮城山、釋迦嶽、一港、駒泉、源氏山、宇都宮、小常陸、綾川、岩木山、逆の矢、常の花、大潮、清瀨川、彌高山、大の高、龍ヶ崎、對馬洋　勝星 三十三

法人登記公告
安城地方金融組合理事中變更
組合長任期滿了ニ付大正六年四月拾九日ノ定時總會ニ於テ左記ノ者當選大正六年五月九日京畿道長官ノ認可ヲ經テ就任シタリ
京畿道安城郡邑內面西里貳百八拾八番地
組合長　鄭鎭英
右大正六年五月拾貳日登記
京城地方法院安城出張所

鑛區買入
銅鐵鉛亞鉛鑛　鑛區買入致候
但許可權先願權及新發見共
右希望者は直接御申込相成度候
京城旭町一丁目一〇三番
三友鑛業事務所
電話九五五番

水銀販賣　白上商店

酒煙草きらいになる藥
どんな酒嫌いになる煙草のみでも害なく心から郵券二錢送れば説明書及大澤博士其他名士の禁酒禁煙論進呈
―禁酒丸―禁煙液―
本舖　大阪西區靱南通二　森田商店

蠶繭買入
魯桑種子　豫約販賣
養蠶具一式　特價販賣
京城府漢江通四番地
東蠶社
長距離電話龍山六四一番　振替京城二二六二番

櫻谷質舖
高價御預り可申候也
京城北米倉町三六
電話二六五四番

京日案內
普通　一回前金五十錢
番外　一回前金（振替一圓）
▲申込後中途解約中止の節は前金返戻せず
▲六回以上の御申込は特に割引
▲御照會の節は返信料の同封あらざれば回答せず
▲御照會の節は必ず數字の番號御記入を乞ふ

普通
鈴木ヴァイオリン　オルガン　本町二丁目　ウツボヤ書店　電二五二七　振二〇二一番　65

番外
◎融通　月收の御方へ極秘迅速簡易立替御報伺又は御來談　京城大和町三の二〇（柄澤前）起木屋　97
◎見習記者採用▲中等教育ある廿五歳迄の獨身者に限履歴書携帯午前中に本人來談▲長谷川町五二　山口　7
◎有給男女社員至急採用す　京城黃金町一丁目　國民興産株式會社出張所　9
◎店員募集　十五六歳迄小學卒業者二三名希望者は至急本人來店あれ身元保證人を要す　大漢門側　富田屋　91
◎融通　月收の御方へ極秘迅速簡易立替御報伺又は御來談　京城大和町三の二〇（柄澤前）起木屋　97

京城春川間合乘自働車　賃金片道四圓
京城發前八時　春川發前八時
京城水標橋通り　京春自働車商會
京城二一三八番　支配人　松田壽男　70

恩給年金即時立替
勸業債券（五分利）額面以上特別高價買受
銀行爲替付受　放資之好期不可逸
京城若草町百六番地　西村商會　電話三千十一番　905

怒濤の月

百六十四 心頭の波瀾『三』の二 小林蹴月作 武内桂舟畫

彼の意地わるな貪慾のお久も、今となつてはもう我も恥も莫くなつて了つた事を思ふと、今更ではないが實に人間ほど淺猿しいものはないのである。幸三郎は、男爵邸へ來てからも、頻りと只お久との奇遇が氣に懸つてならなかつた。殊に彼のお久なる者が、袖子夫人の生みの母親だと爲たらば、どんなものであらう？それこそ小説にも見る事の能ない奇談であるが。併し、事實は異個それらしいのである。何時ぞや、藥櫻の陰で袖子から聞かされた彼女の身上話と、今朝途上で遇つたお久の問はず語りとは、しつくり符節を合はせたやうである。剩さへその面影までも似通つて居る所から見ると、最早寸分の疑ふべき餘地はないのである。幸三郎は、何とかして袖子の居所を突き止め、その報告だけは爲てやりたいと願つた。相知らぬ親と娘とを紹介してやるのは、自分のために非常な同情を持つて、あらぬ嫌疑の災難までも被らしめた所の恩人袖子に對する切てもの義務であり、又人間の取るべき功徳の偉大なるものであると信じた。主人男爵にさへ會ふ事が出來たら、今にもあれ、その事情を打明けて、無理往生にでも袖子の居所を指摘して貰はうとさへ彼は考へたのである。

『倉橋先生、お歡びなさい。先日貴方から懇々のお話があつたので、御前へ御都合を伺つて見ました所、倉橋君の大作が出來したとあらば、今晩晩餐を共に爲ながら、その大作を一覧しやうと云ふ仰せですよ。』

例の黒川執事が、袴の襞を叩きながら、入つて來て、告げ知らして呉れたのである。

幸三郎の辭雪は、小躍りせねばかりに喜び勇んだ。

『黒川さん、そりや本統のお話ですか。では、もう一奮發して、落款を入れて了ひませう。』

『是非完成しといて、御前の滿足遊ばすやうに爲といて下さい。』

黒川は、忙しさうに額を撫で〳〵立ち去つて了つた。

『何だか天氣模様が可笑しくなつて來たやうだが、今日と云ふ日は僕に取つて、餘程變な事ばかり多い日ではないか。彼の以來後姿さへ見せられた事のない男爵が晩餐を共に爲ながら僕の作物を見やうと言はるゝのも變なら、今朝途上で、零落した白富の小母に遭遇したと云ふのも奇中の奇である。況してその白富の小母が、袖子夫人の實の母親であると云ふやうな事が事實であると爲たらば一體その先はどんな事に成るんであらう？』

善きに付け、惡きに付けて、先から先へと心配し出すのが、幸三郎の持前であつた。彼は同じやうな事を心に繰返し〳〵つゝあつたが、不圖黒川の傳言に氣付いて、畫齋一番『怒濤の月』の落款を入れ了つた。幸三郎の辭雪のみでなく、すべての畫家が苦心の大作を成就して、所謂落款印章を入れ了つた時は、即ち一軍の大將が敵國の要塞を陷落せしめたと同様か若くはそれ以上の歡喜と安心と云ひ知れぬ一種の誇りとを感ずるのが當然である。幸三郎も果してその通りであつた。文展の期日までにはまだ少からぬ日時があるのではあるが、彼は此の畫で若し落選するやうな事があれば、それは自分の伎倆の未熟な爲めではなくして、藝術の神の憎しみを受けて居る結果に違ひないとまで自信の度を強めた。同時に又自分の此の畫は、五浦のお靜が果敢なかりし死の賜物であり、袖子夫人の斡旋盡力の効果である事を深く心に感謝したのであつた。それと反對に又惡みても惡むべきは、直眼の下の淨玄寺に居る絹代の輕薄無節操なる行ひであると思つた。

『見よ、暴力で仇を取るばかりが取るのではない。僕には藝術の神と云ふ有力な助太刀があるぞッ。何も彼も秋の文展までは、眼を瞑つて待つて居てやるんだ。』

日はじと〳〵降りの雨の爲めに、平生よりも一時間ばかり早く暮れかゝつた。と、一双の金屏風は、黒川の指揮の下に奴婢どもの手に依り、男爵の寢室に接續した奥の十二疊の座敷に搬ばれたのであつた。

『倉橋先生、貴郎も倩頃御前のお居間へ……。』

三月近くも通つては來たものゝ、男爵閣下のお居間まで案内を受けたのは、幸三郎として無論今夕が嚆矢なのであつた。

新刊紹介

- ▲コーシタイムス（二八）價不詳東京市日本橋本町二小西本店
- ▲紙之世界（一〇三）五錢東京小石川西原町二の一一其社
- ▲理財評論（五月號）二十五錢東京神田今川小路二の八其社
- ▲日本之關門（五月號）十五錢下關市東南部町一四七關門社
- ▲西洋畫報（五月號）二十八錢東京麹町富士見町四の一一其社
- ▲住宅（五月號）五錢東京芝琴平町一住宅改良會
- ▲現代の科學（五月號）二十八錢東京府下澁谷二一五一戸直藏方
- ▲臺灣教育（五月號）二十錢臺灣總督府民政部内其會
- ▲斐界新報（五月號）二十錢東京牛込下宮比町六其社
- ▲都會及農村（五月號）十五錢東京麹町平河町五の三六洛陽堂
- ▲朝鮮醫學會雜誌（五月號）非賣品朝鮮總督府醫院内朝鮮醫學會
- ▲近代藝術（創刊號）二十三錢東京牛込原町三の二八其社
- ▲木太刀（五月號）十八錢東京牛込築地町一二其社
- ▲衛生新報（婦人健康增進法號）十六錢五厘東京小石川宮下町其社
- ▲子供と科學（五月號）十錢東京市外中野一六二九其社
- ▲新國民（五月號）十五錢東京神田駿河臺袋町一六大日本國民中學會
- ▲陽明（五月號）十錢大阪府天王寺村二〇八六大阪陽明學會
- ▲處女文壇（創刊號）十五錢東京神田表神保町三其社

◉北滿洲の鮮人

……最近支那官憲の調査したる處に據れば約八千人と達し居り一概……

▲迷夢を醒し

近來益々融和……諒さし早速認可する筈にて目下規定によりて一般的生活狀態は頗る豐……沿岸の各地金鑛に入込める鮮人無慮……共に洋燈次第に普及さるゝを以て石油……要に餘れる石油の捨場として船賃、箱代等の損失を招かざる範圍内……は數年來遼陽蓬萊行に共一手販賣を特約して手廣く外國油と競爭せしめ……

お化粧の仕方

お化粧の順序　クラブ洗粉　クラブ白粉　クラブ頰紅　クラブ粉白粉　クラブ美身ゼリー　水白粉　牡丹刷毛　美人

第一に 石鹸よりも牛乳よりも遙かに有効な**クラブ洗粉**で丁寧に顔を洗ひ

（第二に）皮膚の美を養ふ**クラブ**美身ゼリーを襟から顔へ掛て塗る、荒れ性の方ならば一番よくきくアレ止藥用の美身劑**クラブ**美身クリームを代りに用ひ能く擦込んでから蒸タオルで拭取る

（第三に）生地まで白くなる**クラブ**白粉をつける（薄化粧には**クラブ**水白粉）

（第四に）牡丹刷毛で白粉を伸ばし水刷毛で均らし濡タオルで抑へて白粉を落付ける

（第五に）お顔にホンノリ櫻色の健康色を與へる**クラブ**頰紅を目の下から頰へかけて薄く刷く

（第六に）お化粧を引立てる**クラブ**粉白粉を肩刷毛に含ませ裾の方を輕く叩いたので顔から襟へかけ能く刷き均らす高尚で美しいお化粧が出來上ります

寫眞

寫眞出張撮影　寫眞銅版、亞鉛凸版　最も熟練せる技術を以て最も迅速と可及懇切を旨とし御需に可應候

京城日報社寫眞製版部

最新刊

書名	著者	定價
判例 第一卷	東京龍松堂編	四、七〇
近世應用鑛物精義 増補三版	岸企 柴田 共著	二、八〇
實驗音響學	村岡範爲	二、五〇
東洋通史	高橋與智	二、六〇
早教育の天才	木村久一	一、四〇
獨逸國民の戰時經濟	外交時報社編	七五
世界の過去現在未來	山路愛山遺稿	一、二〇
禮法と琴唄	吾往孫仲吾	二、〇〇
株式期米相場必勝の手引	三輌堂	一、二〇
悟道錄	山田孝道	一、〇〇
畫家と巴里	正宗得三郎	一、五〇
方丈記新譯	佐野保太郎	四八
世界偉人譚	稻村錦園譯	四〇
彌生帖	鏡花小史	一、〇〇
春の鳥	竹久夢二	八五
わが愛誦歌	若山牧水	八〇
幼きものに	島崎藤村	六〇
句集炬火	臼田亞浪	六五
踊法	來國木田獨歩	五〇
面白半分	宮武外骨	五〇

運動具文房具色々若荷致しました御用の節は早速御覽に入れます

大阪屋號書店　京城本町一丁目 電話六〇・二六六番 振替京城二五七三番

朝鮮人參應用 滋養菓子 ホーカース井ート

滋養となる　血となり肉となる

▼堀越商店の製藥試驗部にて滋養强壯劑眞正朝鮮人參其他數種を應用精製したる最新の滋養菓子ホーカース井ートを試みよ到る處に販賣す

東京和泉橋 堀越嘉太郎商店（振替東京一五六）

倫敦にも巴里にも……是程輕妙に

眼病を治す目藥は大學目藥以外になし。

試みに御地一等の藥店で一番能く賣れる目藥はと御尋ねあれば……

屹度！

大學目藥だとお答へ致します

是れが何より能く効く唯一の證據です

各藥店にあり　定價　拾錢　廿錢　卅錢　五拾錢

本舗 大阪　合名會社 參天堂藥房　電話本局 一二〇四 一二〇五

汽船釜山出帆廣告

- 門司、神戸、大阪行 ○○和歌浦丸 五月 日後五時出帆／立神丸 五月十八日後五時出帆
- 元山、淸津、浦鹽行 ○○和歌浦丸 五月十七日後十時出帆／立神丸 五月 日後四時出帆
- 元山、西湖、新浦、城津、淸津行 ○第三琴平丸 月 日後六時出帆
- 門司、宇品、神戸、大阪行 ○第三琴平丸 月 日後六時出帆
- 佐須奈、嚴原、壹岐、博多行 ○天草丸 毎月一日九日十四日廿一日廿六日 午後十時出帆

釜山港埋立新町 本船取扱店 大池回漕部

大阪商船仁川出帆

○外航路所屬航路（遼洋航路を除く）間連絡御乘船の時は五分引を以て連絡切符發賣仕候

- ◎關門、神戸、大阪行 ××汕頭丸 五月十六日後二時出帆／汕頭丸 五月廿九日後二時出帆
- ◎群山、神戸、大阪行 須磨丸 五月 日後五時出帆
- ◎木浦、釜山、嚴原、鄕の浦、長崎行 ××安東丸 五月二十日後二時出帆／安東丸 六月七日後二時出帆
- ○橫濱行 △×遼州丸 五月廿九日後二時出帆／廣州丸 五月卅一日後二時出帆
- ◎南浦、關門、神戸、大阪行 須磨丸 五月廿二日後二時出帆
- ◎鎭南浦、大連行 ××安東丸 五月十五日後二時出帆／安東丸 六月二日後二時出帆
- ◎大連直航 △×遼州丸 五月廿四日／廣州丸 五月廿六日 正午出帆
- ◎西湖津新浦城津淸津行（元山出帆） 宮島丸 六月四日後十二時出
- ◎淸津行（元山出帆） 宮島丸 五月十七日後十二時出
- ◎上海、基隆、打狗行（大連出帆） 湖北丸 五月十八日前六時出帆／基隆丸 六月三日後四時出帆

御注意 ◎朝鮮鐵道及び南滿洲鐵道會社と船車の連絡切符發賣仕候◎御乘船客は本船出帆約一時間前無賃送迎可致候◎×印は一等客御斷り△印は船客御斷り

切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話一二番、二二〇番、五五八番

切符發賣所 内國通運會社京城支店 電話七〇八番

切符發賣所 仁川京城通り 開豐旅館 電話二六一番

朝鮮郵船出帆

本社 電話長一九五二番二二三一番

鐵道會社及社外船と荷客連絡運送の便あり詳細は支店、出張所、代理店荷客取扱店に御照會御願候

京城南大門驛前 京城荷客取扱店 松原運送店（電話長一七〇番）

- ○○○○ 江原丸 五月 日／京畿丸 五月廿四日／黄海丸 五月廿九日／咸鏡丸 五月十九日 釜山發（門司より釜山各港寄港雄基淸津航路）
- ○○○ 穩城丸 五月 日／昌平丸 五月 日／鏡城丸 五月 日 元山發（元山より各港經由雄基行）
- ○ 昌平丸 五月 日 元山發
- ○ 盈德丸 五月 日 釜山發（甘浦、九龍浦、浦項各寄港）
- ○○ 江陵丸／襄陽丸 毎日 釜山發 浦項發（長生浦方魚津寄港）
- ○ 三浦丸 五月 日 釜山發（長承浦、巨文島、濟州島各寄港）
- ○○ 海州丸／綾羅丸（○巨濟丸 ○慶寶丸） 毎日 釜山發（各港寄由統營行）
- ○ 平壤丸 五月十四日 元山發（城津淸津雄基經由浦鹽行）
- ○ 順天丸 三日目毎に 木浦發（各港寄由麗水行）
- ○ 慶興丸 五月 日 木浦發（各港經由濟州島行）
- ○ 慶興丸 五月 日 木浦發（于多島濟州島行）
- ○ 公州丸 五月十六日 木浦發（各港寄由濟州島行）
- ○○ 肥水丸／晋州丸 五月十四日／五月十八日 仁川發（各港經由木浦行）
- ○ 宗信丸 五月十五日 仁川發（海州他各港寄由鎭南浦行）
- ○○ 全南丸／光陽丸 毎日午前 仁川發（華江島、橋島、海州行）